

ペンギンは、いいですね…
癒されます。

高橋 脩 Osamu Takahashi

cover design
IR design studio

ISUCA
【イスカ】

高橋 脩 Osamu Takahashi

2

Kadokawa Comics A

ISUCA
【イスカ】
2
高橋 脩

KCA148-13
角川書店

9784047156258

ISBN978-4-04-715625-8
C0979 ¥560E

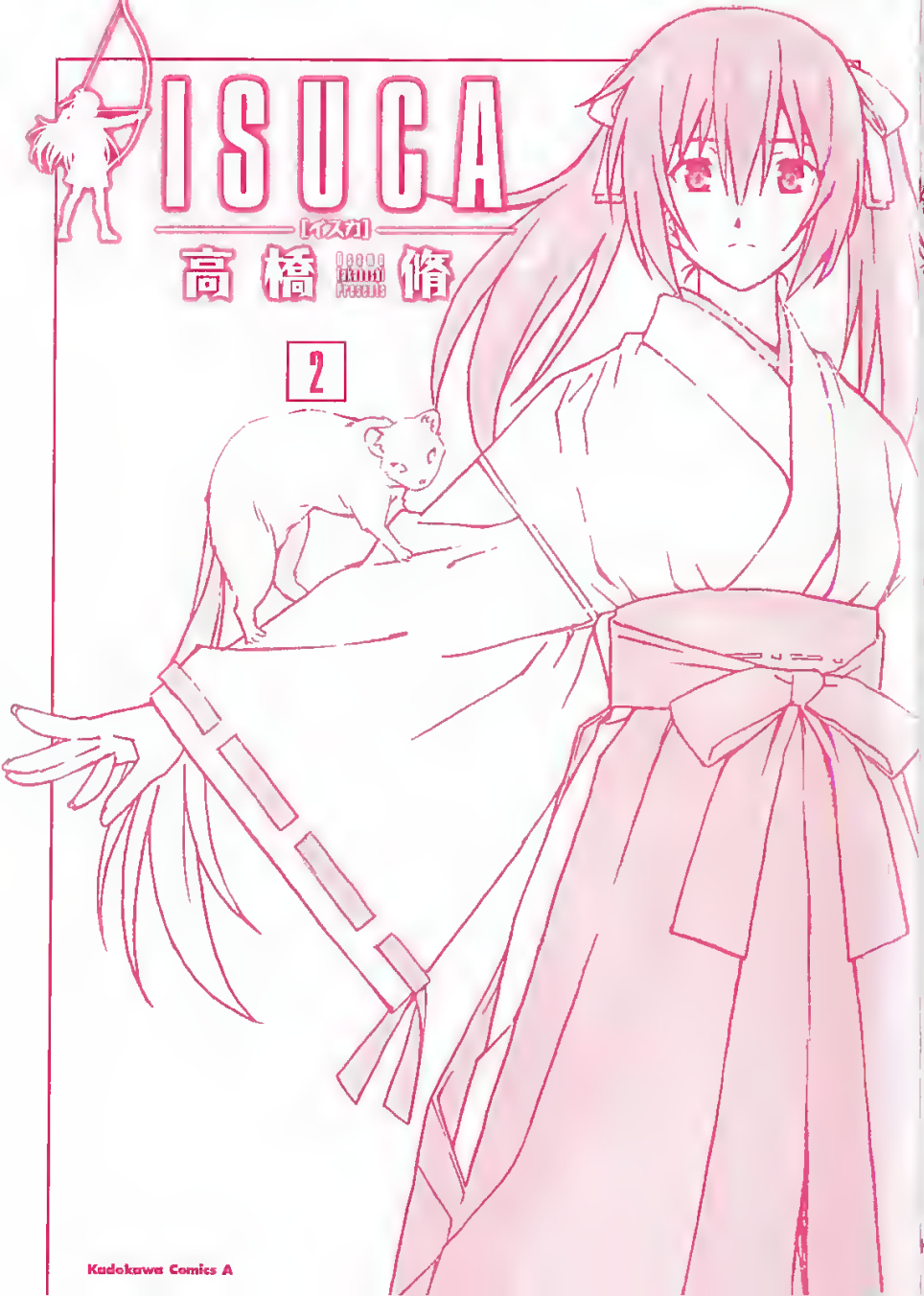
1920979005600

定価：本体560円（税別）
［発行］ 角川書店

従妹である須世理のせいで、真一郎に将軍としての命ともいえる「真名」を知られてしまった羽邪。このことがばれてしまうと烏凄家から追放されてしまうため真一郎を許婚として共同生活を始める羽邪なのだが？真一郎と羽邪が急接近（？）する、放課後退魔アクション第2巻。







Kadokawa Comics A

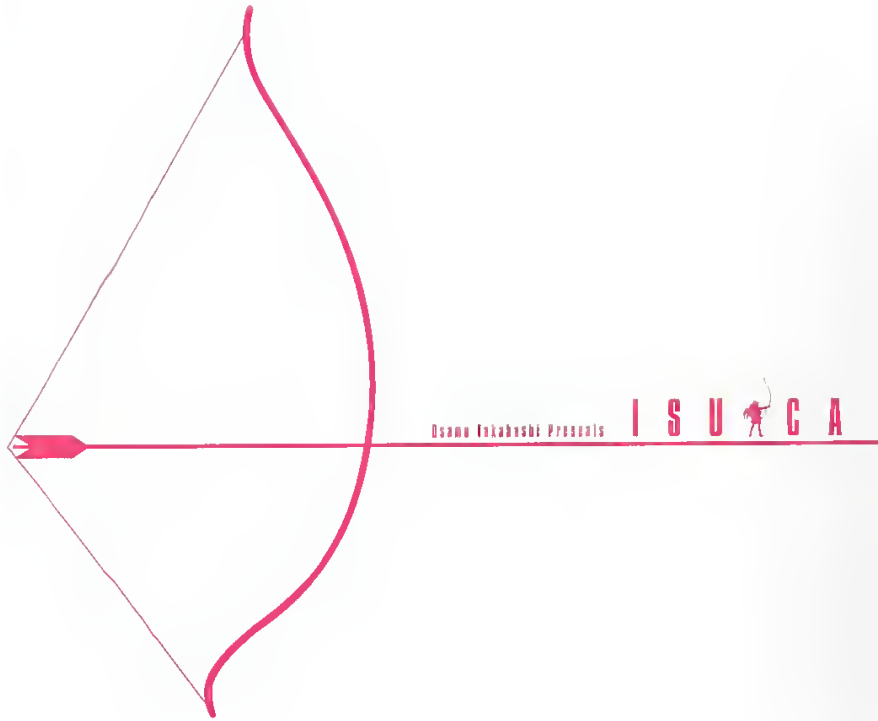
ISUCA

[イスカ]

2

高橋 脩

KCA148-13
角川書店




ISUCA
Osamu Takahashi Presents

目次

第捌話　契り①　003
第玖話　契り②　027
第拾話　精気①　051
第拾壱話　精気②　077
第拾弐話　デート　101
第拾参話　対立　127
第拾肆話　共闘　151



ISUCA

[イスカ]

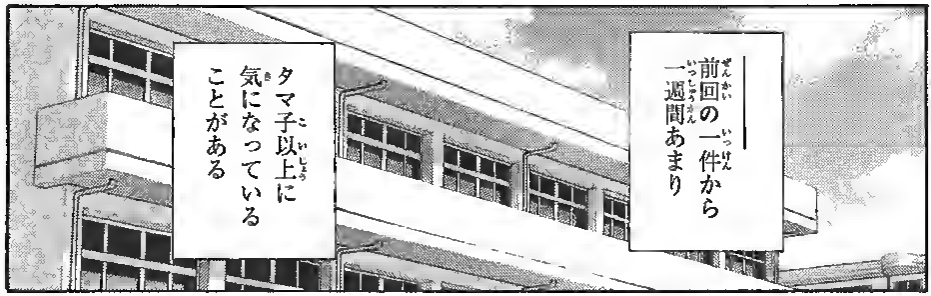
高橋 Takahashi 脩 Shuu

2

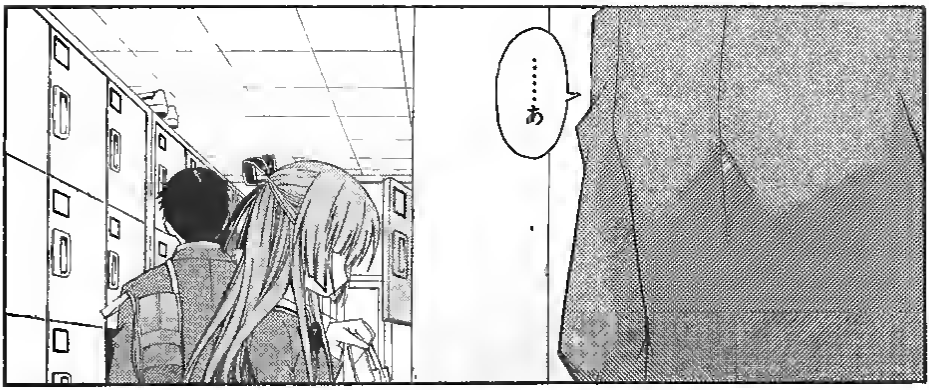
第捌話 契り①

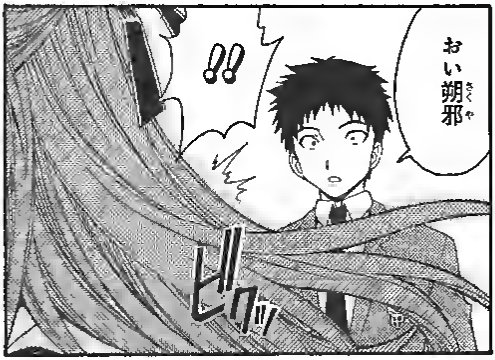

おーい
タマ子
まだ寝てんのか
いい加減起きろ
うぅ…おはよ
シンイチロ…
ゴラッ
!?
ば…馬鹿
おまえまた裸で
服着ろって
言ってんだろ
裸じゃないよ
ほら
そんなんじゃ
服着てるうちに
はいらねーよ

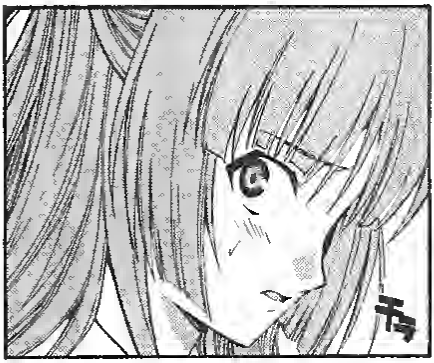

いいか？
俺は学校に
行くから
外に出てもいいけど
俺以外の前では
猫の姿でいるんだぞ
は――い


前回の一件から
一週間あまり
タマ子以上に
気になっている
ことがある


どうしたんだよ
朝から
溜め息つくと
幸せが逃げて
くんだぞ
だから
モテないんだな
浅野
関係ねーだろ
……
…ふう


……あ


おい朔邪
!!




あ……


おい なに
やってんだよ
知らない奴から
いきなり下の名前を
馴れ馴れしく
呼ばれたら
そりゃ逃げるわ
……

あれ以来
朔邪は俺との
接触を避けて
いる

バイトにも
呼ばれないし

学校でも
俺に近付こう
としない

ニュートン

ここテストでるよ

あいかわらず
浚野の弁当
うまそうだ
な――――

やはりあの時
――――

分けてほしいなら
素直に言えって


真名を
言っちまったのが
原因なのかな
後で先生に
相談すっか


放課後
化学準備室
そりゃ
そうでしょうね


キュッ
霊能者にとって
真名を知られるって
いうことは
命を差し出すのに
等しいのよ
キュッ
そうなん
ですか……
煩悩もまだ
どうしていいか
悩んでるんで
しょうね
でも丁度よかったわ
浅野くんを呼ぼうと
思ってたのよ
10月1日
え？


浅野くん
朔邪のこと
どう思ってるの？
ど…どうって
……


まだ実感ないかもしれないけど
その気になったら君は朔邪のこと思うがままにできるのよ？
思うがまま
……


もや
もや

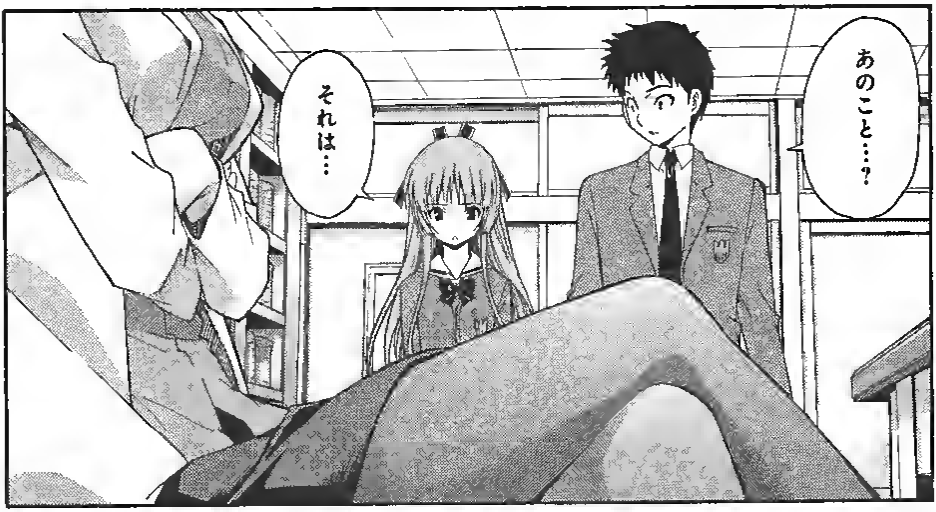

そ 浅野くんが
いま妄想した
ようなこと
何でも自由にね
い…いや
俺は別に
イヤらしいこと
なんか——
ムラッ
撫子
何よ話って
来たわね
あ……


あ……っ
おおい待てよ朔邪……!!


…あれ?


その気になったら
朔邪のこと
思うがままに
そ…そうか


——それで朔邪
この様子だとまだあのこと浅野くんには話してないみたいね？

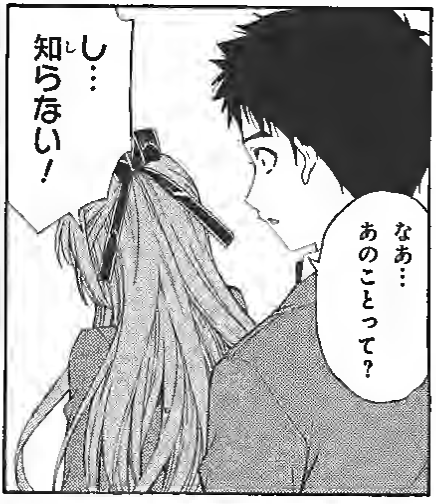

あのこと…？
それは…


今日中に伝えなさいちゃんと朔邪の口から
でないとこないだの件本家に報告するわよ


ち…ちょっと
……！
どちらにせよ
時間の問題よ
須世璃にも
黙っておくよう
言っておいたけど


あの子
嘘はつけないし
訊かれたら
素直に答えちゃう
でしょうからね


う……


なあ…
あのことって？
し…
知らない！



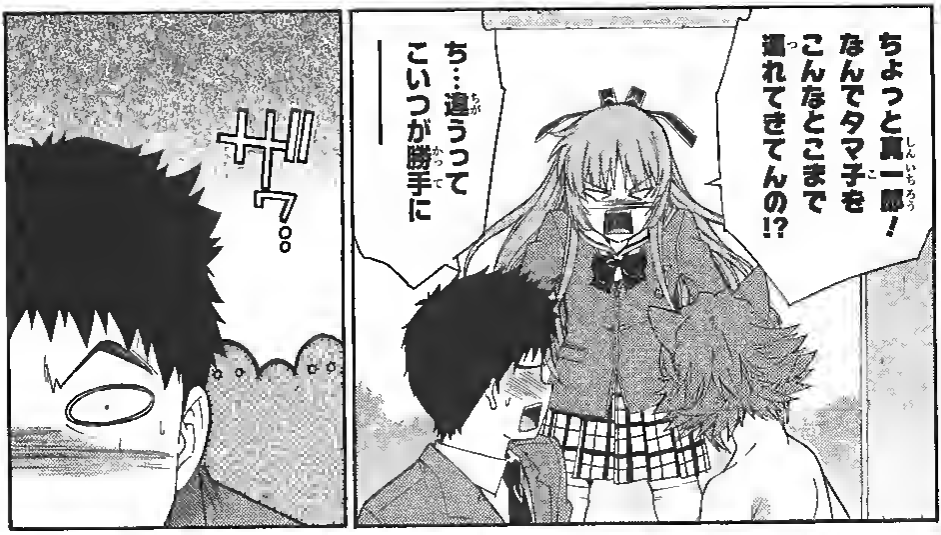

…なあ
朔邪


結局
なんだったんだ
さっきの話…
うっさいわね
そんなに気に
なるなら
あたしに「命令」
すればいいでしょ
どうせあたしは
もうあんたには
逆らえないん
だから……


…いや
それは止めとく
朔邪が自分から
話してくれるのを
待つ
あっ
真一郎
なんで……

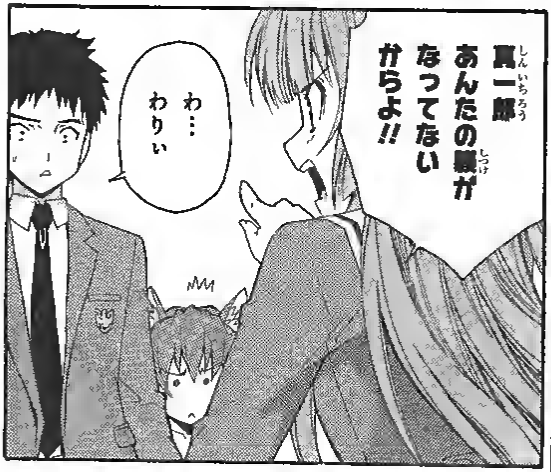

見つけた!!
え？
シンイチロ!!!
ぶ……っ!!

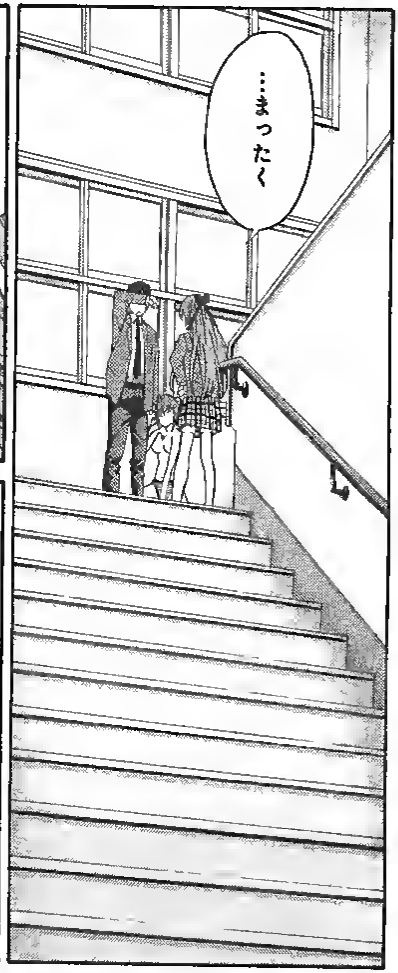

タ…タマ子
おまえなんで
ここに…!?
にゃはっ
シンイチロの匂い
追いかけて
きちゃった


ちょっと真一郎!
なんでタマ子を
こんなとこまで
連れてきてんの!?
ち…違うって
こいつが勝手に
ガ?。


あ…浅野
その子は…
!?
ドドド


あっ!?


真一郎
あんたの躾ガ
なってない
からよ!!
わ…
わりぃ


…まったく

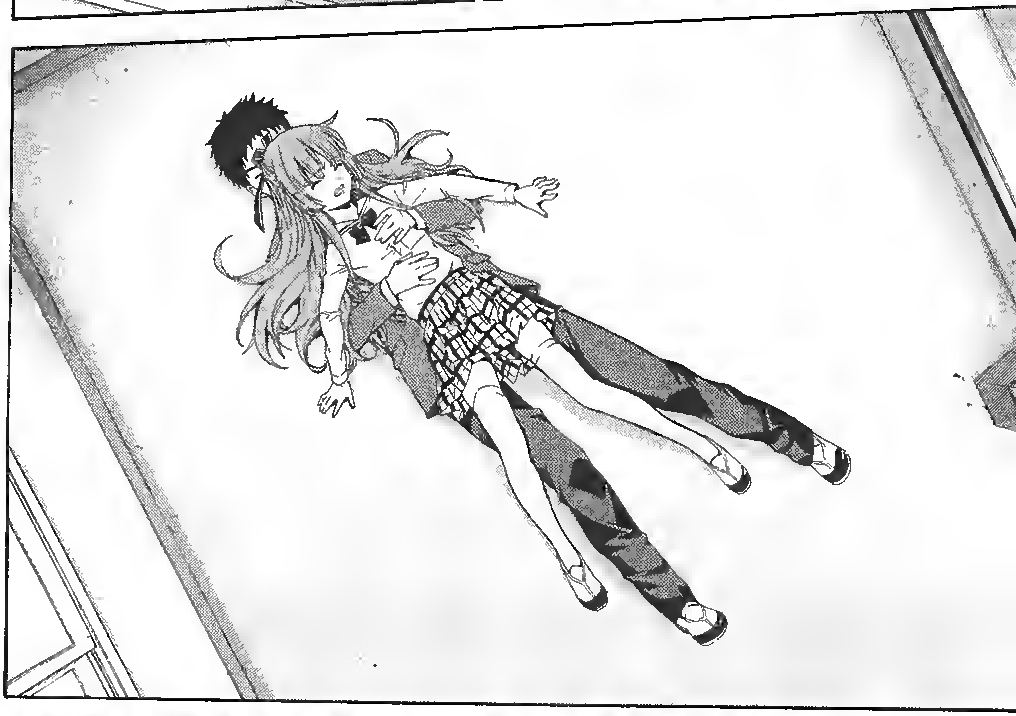

ちょっと!
シンイチロは
なにも悪いこと
してないよ!
だいたい
なんで裸
なの!?


裸じゃないもん
ほら！
まったく…
こっちが恥ずかしく
なるわ
ほら特別よ
これ羽織って
おきなさい
うぐぐぐ
なんか
小っちゃい
!!?
特に胸のとこ
島津流弓道術
灯籠——


!?
ポウ
小さくて
悪かったわね!!
にゃっ!?
そんなの
当らないわよ
ペチャパイ
フヨヨ


待て
馬鹿猫!!
おおい……
!?
やっぱり馬鹿ね
そっちは壁上
行き止まりよ
カラ
あっ……
!!?

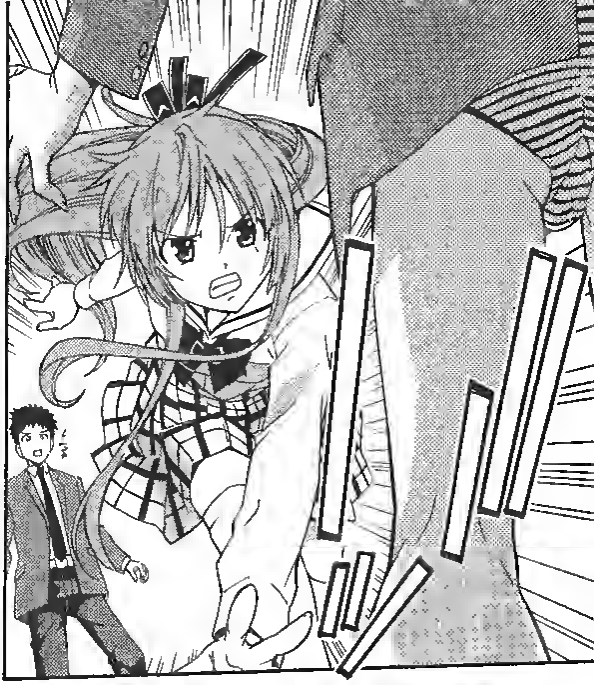

朔邪!!




だ…大丈夫か……？
うん…

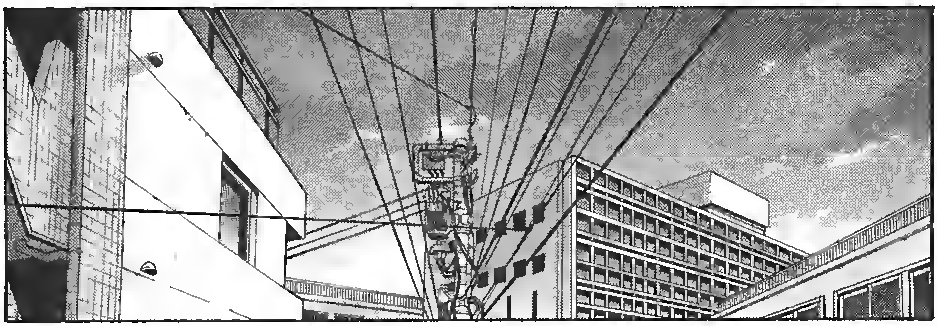

あ…っ
え…？
あ…わ
悪いっ
……
ねぇねぇ
シンイチロ
大丈夫？
怪我なかった？


ぅぅぅ




止めろ!!!

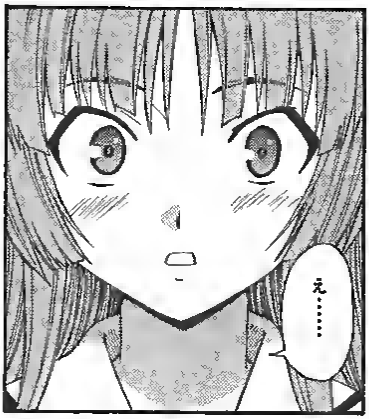

ケンカは終わり
いいな？




いいかタマ子
もう学校には来るなよ
破ったらメシ抜きだぞ
それと服を着ろ
…はいニャ


真一郎…
さっきは…そのありが——
あっ そうだ
朔邪ひとつ言っとくな


これからは
俺の言葉に
従わなくていい
今まで通りで
構わない

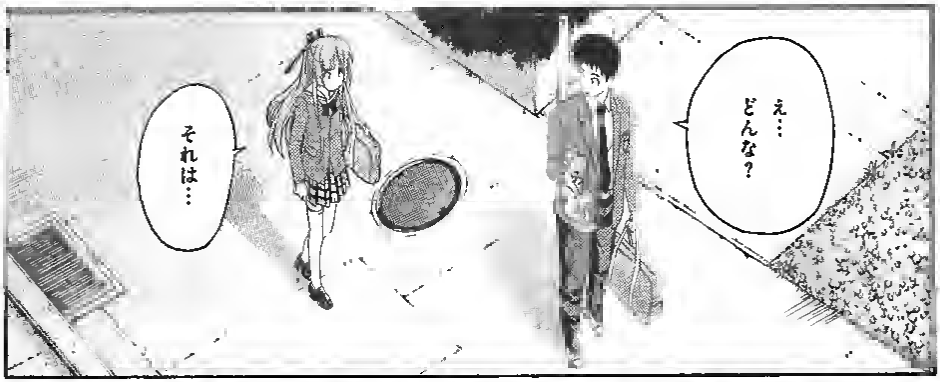

え……


真名を
言っちまって
悪かった
やっぱワガママで
威張り散らしてる
ほうが
朔邪
らしいって
いうかさ


ふ…ふんだ
だいたい
馴れ馴れしいのよ
「朔邪」なんて


な…なんだよ
この前自分で
そう呼べって
――
う…
うっせい！

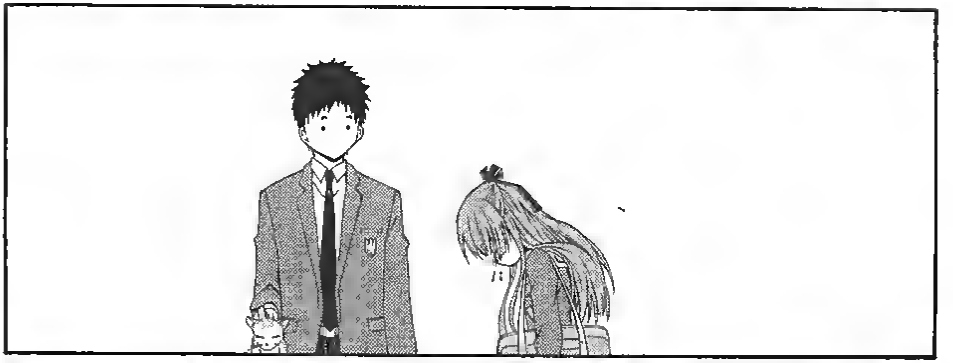

ま…まあ
あれだ
他にもっといい
解決方法があると
いいんだけどな
……ひとつ
あるには
あるんだけど
……


え…
どんな？
それは…



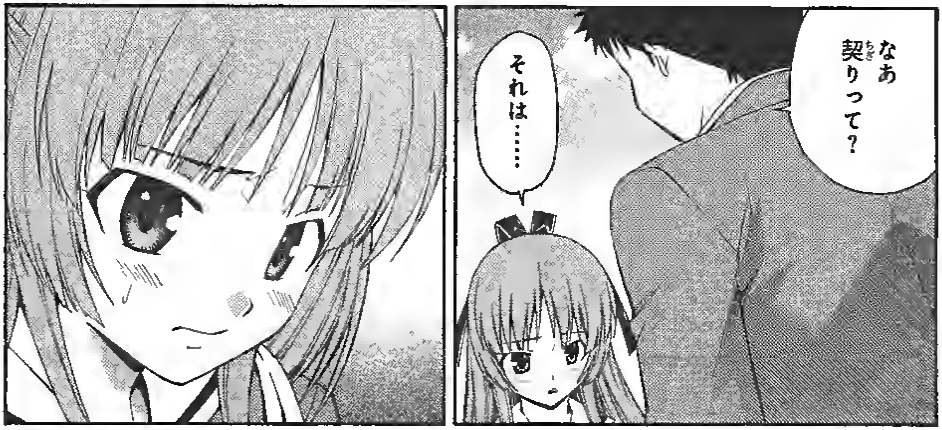



あ…あたしと
その…
契る……こと
……だ




……へ？
第捌話 ―了―


契り？


なあ
契りって？
それは……


あっ
おい…っ
なんなんだよ
……

第玖話 契り②

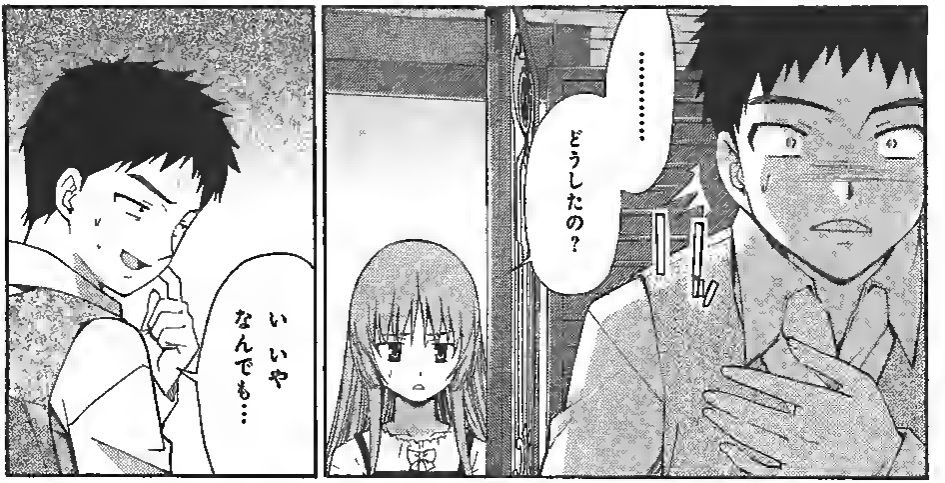
その日の夜――



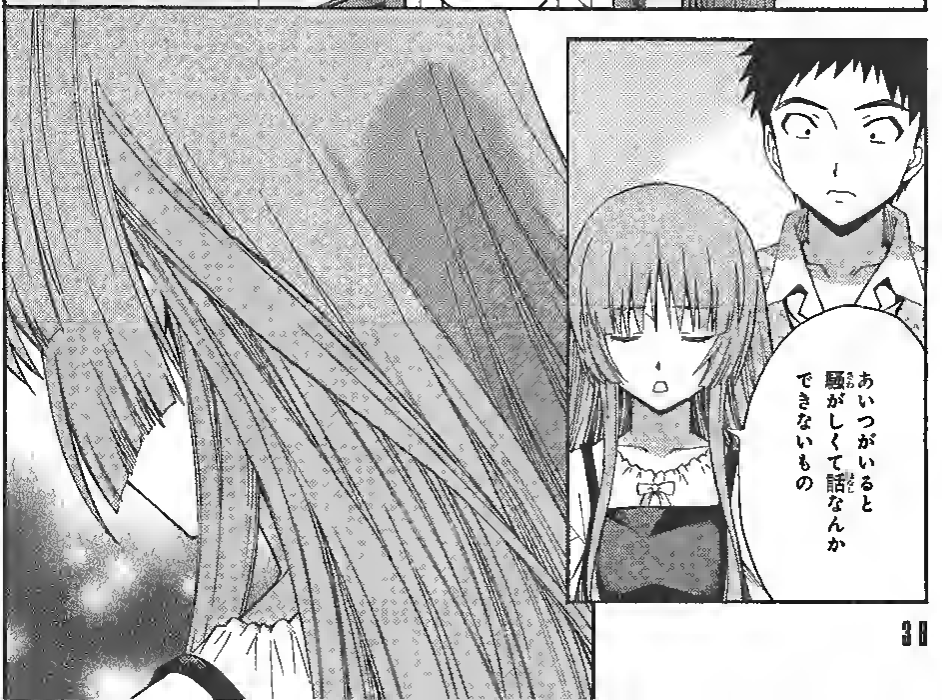





しかしあの後
いろいろ考えて
みたけど
「契る」ってアレ
……なのかな
真一郎
お願い
あたしを
ぐわぁああっ
本当に
そんな事に
なったら
心の準備が
……
い…いや
まさかな
そんな事
あるわけが
――


……
どうしたの？
いいや
なんでも…


タマ子は？
ああ
家に置いてきた
そう
ならいいけど


あいつがいると
騒がしくて話なんか
できないもの


ゴク…
あ――
いいお湯だった
あら
浅野くん
もう来たの？
せっ
先生
……？
この馬鹿
見てんじゃ
ないわよ!!
あだっ!!


うふふ
ごめんね 浅野くん
もう来てたの
気付かなくて
ﾋﾘ
ﾋﾘ
いえ…


朔邪も
ぶたなくて
いいのに
真一郎が
悪い！
あ…でも
それじゃ先生
俺が来るの
知ってたん
ですか？
朔邪がちゃんと
話をしたいって
言うから
私が呼ぶように
言ったのよ
そうなると
今後のことを
いろいろ決めないと
いけないでしょ？


今後って…？
こういうのは二人の間だけで済む話じゃないし
実家の人達にもきちんと紹介する必要があるじゃない？
いくら形だけといっても
浅野くんの御両親は海外なんだっけ？
ち…ちょっと待ってください
いったい何の話なんですか…？
なに言ってんの浅野くん承諾したんでしょ？
え…
朔邪との結婚
ええ〜〜っ!?


ぜんぜんちゃんと話してなかったわけね


…そう


あ…あたしは話したわよ
真一郎が馬鹿なだけよ！


そうなの？
俺が聞いたのは「契り」がどうとか……
それだけ言って走って行っちゃったから


……

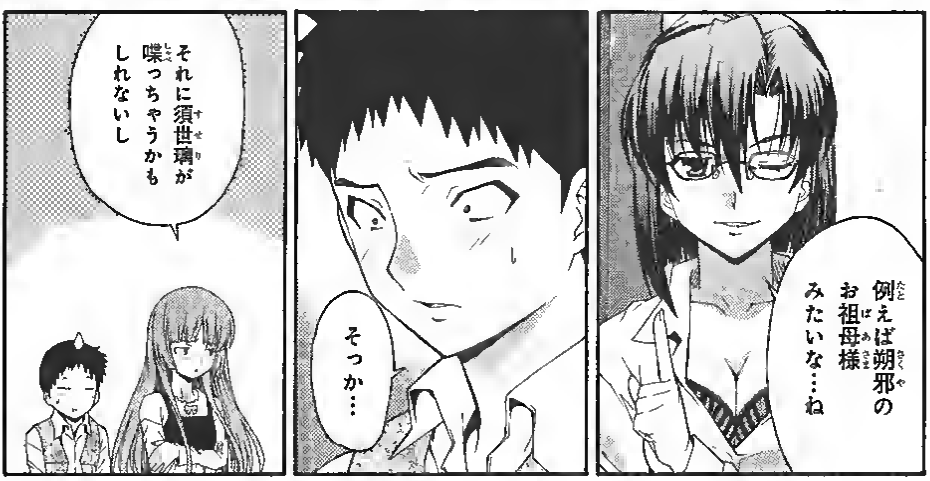

しょうがないわね
私から説明するわ


真名を知られるのは
命を握られるのに
等しいって話は
したわよね？
真名を知られた
霊能者は
真名を唱えた者…
「真主」に絶対の
服従を強いられる

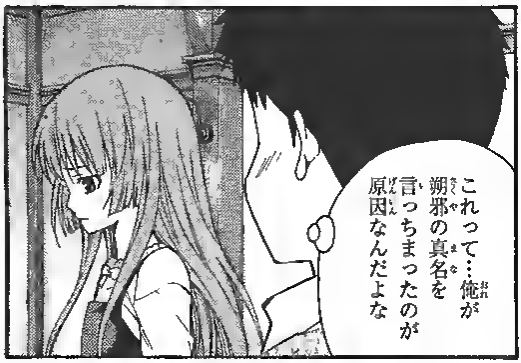

そんな人間が
霊能者の一族の当主に
なれると思う？
それは…
まあ当主云々
以前の問題ね
島津家の掟では
真名を知られた者は
追放処分となるのが
通例だから
追放って……

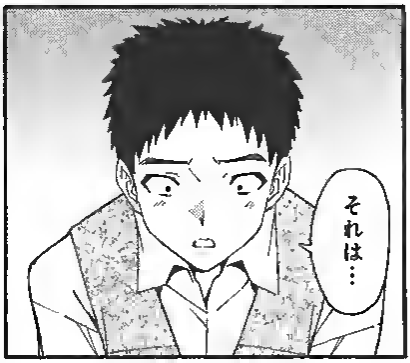

でも唯一
夫婦間でのみは
真名を明かすことが
認められている
だから浅野くんを
朔邪の婚約者として
家に紹介しようって訳
ガーン
婚約者……
で…でも
そんなことしなくても
黙ってればいいんじゃ
……
だいたい
結婚なんて
――――

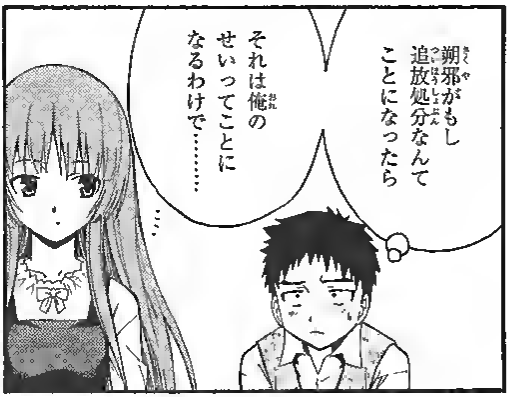

あたしだってあんたと結婚する気なんてないわよ!!
あくまで撮りよ撮り!!
…隠すにも限度があるのよ
真名を知られると霊気に変化が生じるの
それを「視る」力を持った人相手には隠すことはできない


例えば朔邪のお祖母様みたいな…ね
そっか…
それに須世璃が喋っちゃうかもしれないし


それで浅野くん
どうする？
朔邪が言った通り
婚約というのは
あくまで形だけ
年齢的にも
結婚なんて
先のことになるし
その間に別の
解決方法を探るわ


これって…俺が
朔邪の真名を
言っちまったのが
原因なんだよな


それは…


朔邪がもし
追放処分なんて
ことになったら
それは俺の
せいってことに
なるわけで……
……


真一郎
言っとくけど
これを人助けとか
思うんじゃないわよ

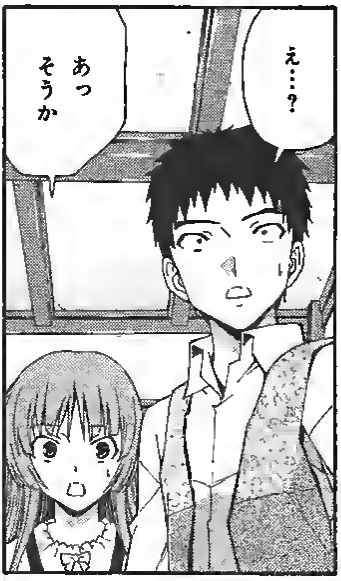

え？
だいたいあんたが
あたしの真名を
言わなければ
こんなことに
なってないのよ!!
そもそもの
原因を作ったのは
須世璃だけど
そっちはそっちで
別の形で借りを
返させるわ
とにかく！
あんたはあたしに
借りを作ったの
それを返すのは
義務よ義務!!


……
そうだな
借りは
返さないとな
こ…こう
人を子供みたいに
扱うな！
それで先生
俺はどうしたら？
そうね
日を改めて君を
朔邪の実家に
連れてくわ


その時は
「結婚を考えてるくらい
深く愛し合ってる二人」
として紹介するから
ちゃんとそういう風に
振るまうのよ
えっ!!?


ば…馬鹿
見るな!!
まあ 恋人の演技は
練習しておいて
もらうとして
それともう一つ


浅野くんは
自分の真名を
朔邪に教えたの？

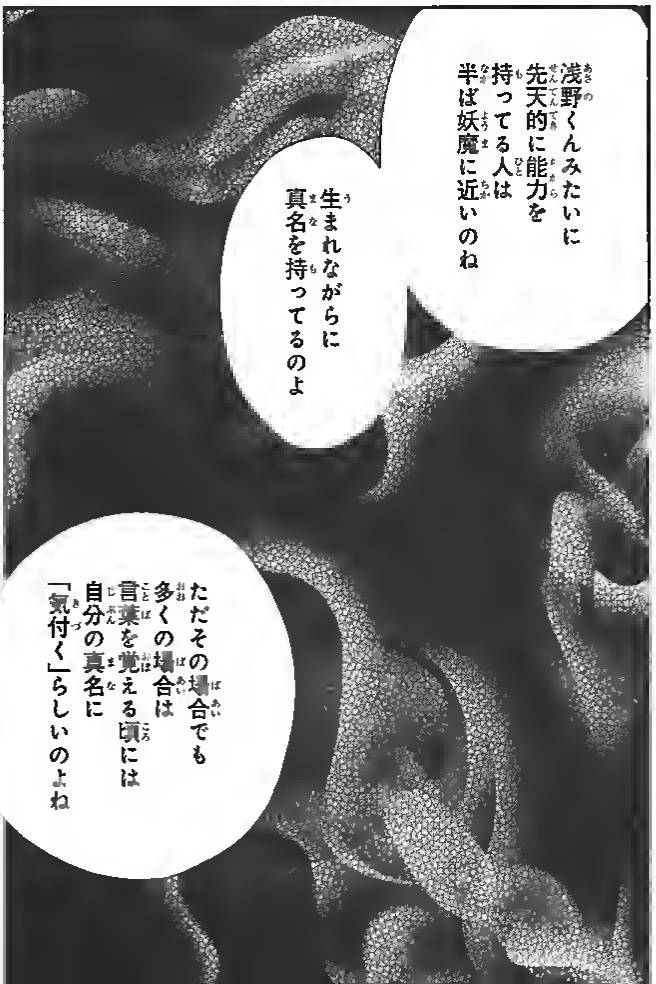

え…？
あっ
そうか


俺の真名？
そう
夫婦間では
真名を明かして
いいといっても
それは互いに
教えあうのが
条件なのよ


でも俺は
真名なんて
――
持ってる
はずよ


霊能力を
行使する者は
例外なく真名を
持ってる
真一郎も
「真眼」の力を
使ってるでしょ？


――普通
霊能者は幼い頃から
修行を続けて
ある段階で自ら
真名を名乗ることで
その能力を
得るんだけど


浅野くんみたいに
先天的に能力を
持ってる人は
半ば妖魔に近いのね
生まれながらに
真名を持ってるのよ
ただその場合でも
多くの場合は
言葉を覚える頃には
自分の真名に
「気付く」らしいのよね

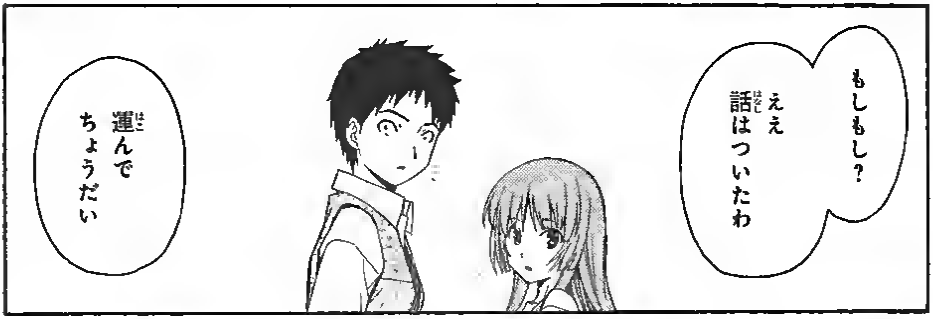

そうなんですか…
調べる必要があるわね 浅野くんの真名
自分自身に「真眼」の力は使えないから
ちょっと手間がかかるけど——


協力…してくれるわね？
スイ




はっ はい…


このスケベ！
どこ見てんの!?
な…なんで
そんな怒るん
だよ!?
それじゃ
ピッ
ピ


もしもし？
ええ
話はついたわ
運んで
ちょうだい


わっ!!?




荷物はこれで全部です
思ったより少ないわね
ご苦労さま
この声は…
ニャアアッ！こっから出せ早く！
ふにゃあああっ!!

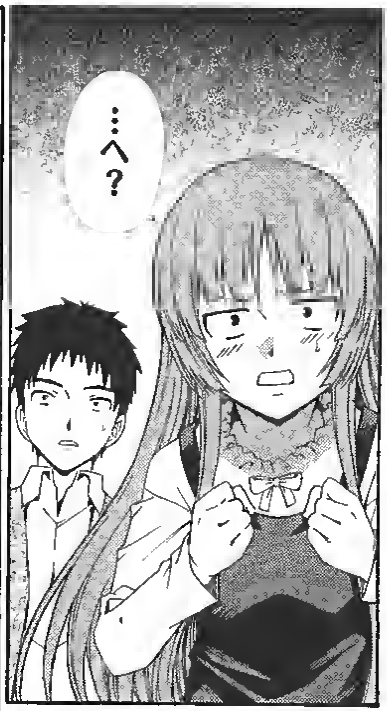

タ…タマ子!?
あ…シンイチロ
いきなり知らない男たちが部屋に入ってきて……
タマ子!
これはいったい
朔邪はよく分かってるでしょう
真名を調べるには手間がかかるって


真名は霊能者にとって最大の秘密
突きとめるには何重もの霊的プロテクトを突破しないといけない
しかも時間はあまりない

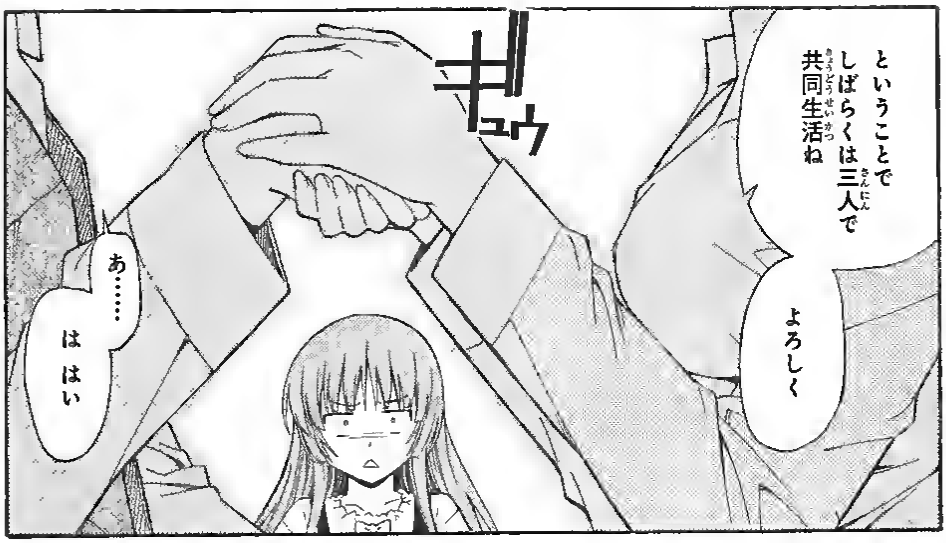

だから浅野くんにはここに住みこみで協力してもらいます


あ…あたしに霊障でそんなこと……
だいたいあたしも男と二人暮らしさせるつもり!?
ああ心配しないで


私も一緒に住むから


…へ？


ち ちょっと どういう事よ？
だって私 朔邪のお目付役だもの
それに浅野くんの真名を調べるには私もいたほうがいいでしょ？


ということで
しばらくは三人で
共同生活ね
よろしく
キュウ
あ……
は はい


勝手に決めるな
――っ!!
ここの家主は
あたしよ!!
ふふ
浅野くんの料理
楽しみだわ
三人って…
あたしも
いるニャ

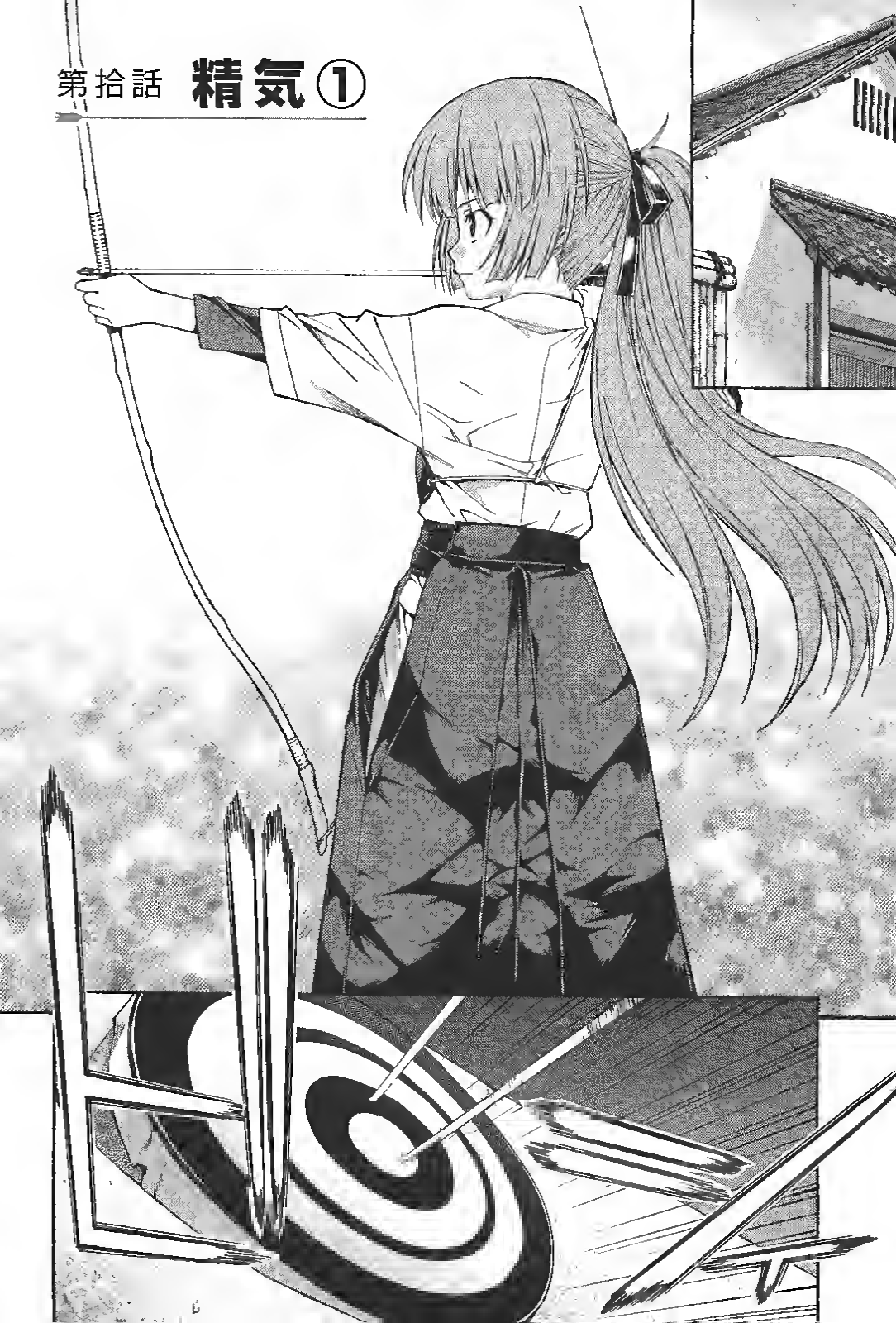

こ…この
……

第玖話 ―了―

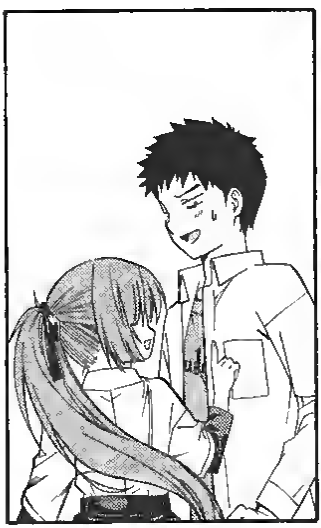

ISUCA
[イスカ]


ふみゅ……
ヒョコ
ん～～～～っ
おはよ
シンイチロ！
ありゃ…
いない
そういえば
朔邪の家に
連れてこられたん
だっけ
まさかまた
シンイチロに
意地悪してるん
じゃ……

第拾話 精気①




へぇ――
うまいもんだな
フフ
とーぜん
でしょ！




さ ほら
あたしの腕に
見惚れるのも
分かるけど
さっさと矢を
回収してきて
はいはい
ったく
朝練を手伝えって
そういうことか


シンイチロ
あたしより
アイツのほうが
好きなのかな…


うぐぐぐ
シンイチロ
楽しそう…


というより
単に朔邪が
こき使ってるって
感じだけどね
にやっ!?
それより
タマ子ちゃん
浅野くんの
好感度が
一気にアップする
方法あるんだけど
やってみない？
おまえは
えっと……
撫子よ
名前くらい
覚えなさい
こうかん…？
ようするに
好きになって
くれるってこと
ほんと!?
私は嘘は
つかないわよ
ニコッ
さ
ついてきて
うん！

姉弟子
矢とってきたぞ

そこ
しまっといて

練習いつも
やってんのか？

雨の日
以外はね

じゃないと勘が
鈍っちゃう

それじゃあたしは
着替えるから
真一郎は朝御飯の
支度して

それが終わったら
ゴミ出しね

はいはい

撫子があんたを
むりやり引越しさせて
正直どうしようかと
思ったけど

面倒くさいこと
全部やって貰えるし
悪くないかもね

おいっ

…ま
いいか


おーい朔邪
朝飯できたぞ
いま行く
ちゃんと
目玉焼きの黄身は
半熟にした？
大丈夫だって
シンイチロ――
ねね
これどう？
タ…タマ子!?
どうしたんだ
その格好…
あのね
ナデシコが
着せてくれたの


うふふ
最初見た時から
似合うんじゃないかって
思ってたのよ
せ 先生！
ちょっと
窮屈だけど
シンイチロが
こういうの
好きなら あたし
がんばって着るよ
ああ
いいんじゃないか
ダメよ
馬鹿猫にそんなの
猫に小判よ！
脱ぎなさい！
やーだ！
シンイチロの
命令しか
きけないもん
この…！
あ……
!?

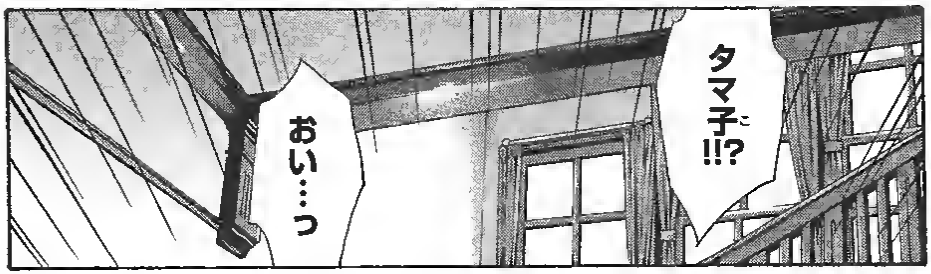

む…が…
……


お おまえ
またパンツ
穿いて――


だってどうせ
見えないんだし
……
窮屈なんだ
もん
それでも
穿きなさい!!


真一郎
キワッ
あんた朝から
なにしてんの！
このスケベ!!
ち ちょっと待て
見てただろ
なんで
俺が…
シンイチロに
手を出すな
――っ!!
!!

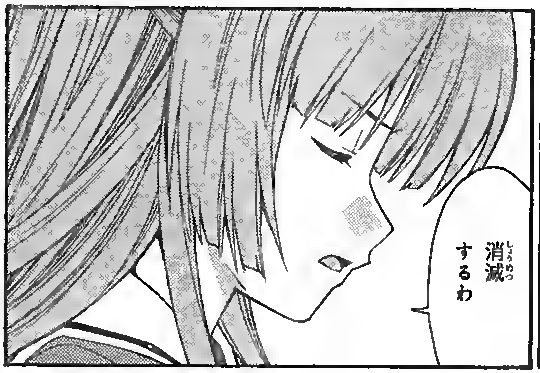

!?

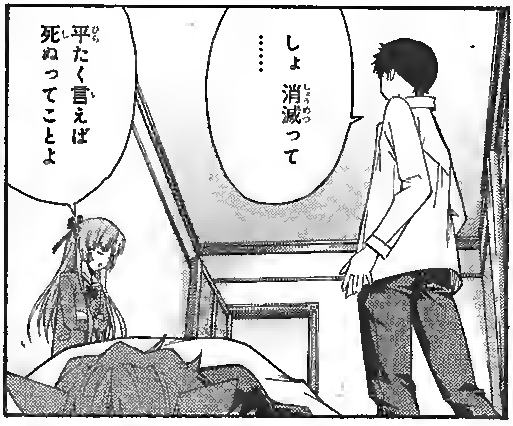

タマ子!!?
おい…っ


精気が尽きかけてるわね
ハァ
ハァ


精気…？
前に話したでしょ
妖魔は人間の精気を
吸うことでこの次元に
存在しているのよ
タマ子
真一郎に支配
されてから
一度も精気を
吸ってないんじゃない？


その…精気が
なくなると
どうなるんだ？


消滅
するわ


しょ 消滅って
……
平たく言えば
死ぬってことよ


ちょ ちょっと
待てよ
じゃあアレだ
俺の精気を
吸わせるとか
……


…駄目なのか？

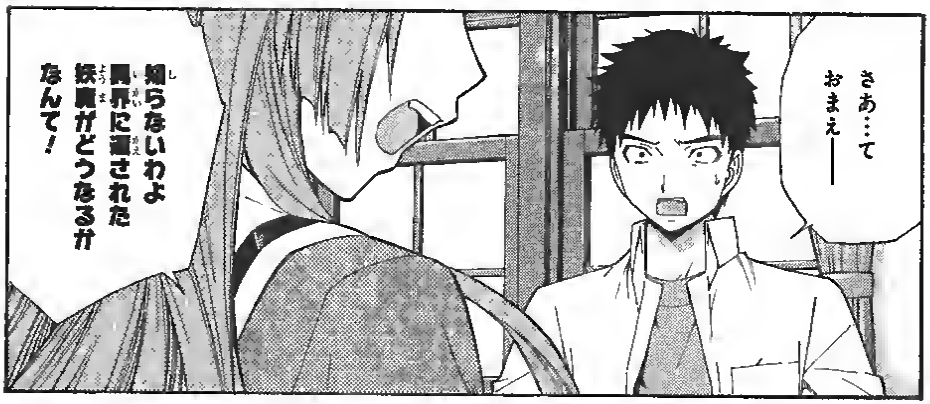

猫又はそれなりに力を持った妖魔だけどタマ子はまだ若いしそこまで大量の精気を吸われることはないかもしれない
でもそれでどうするの？

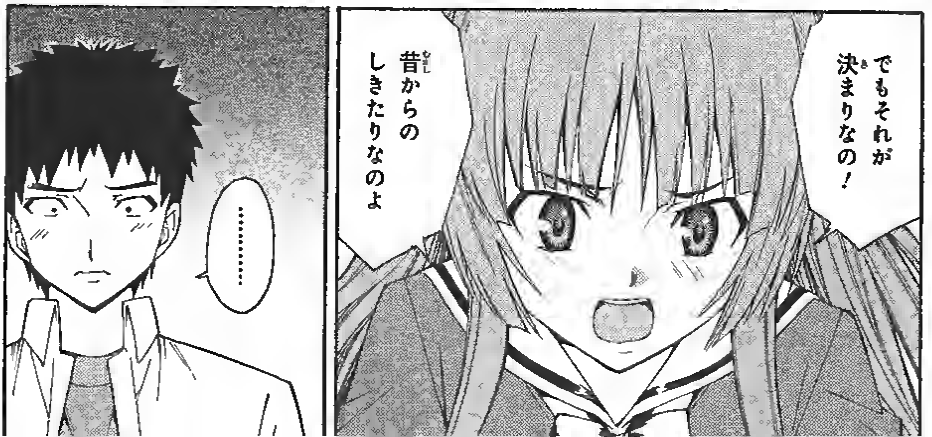

どうって…？
今回はそれでしのいでもまた精気を与えないといけないのよ？
そんなの続けてたら…


遠からず死ぬわよ

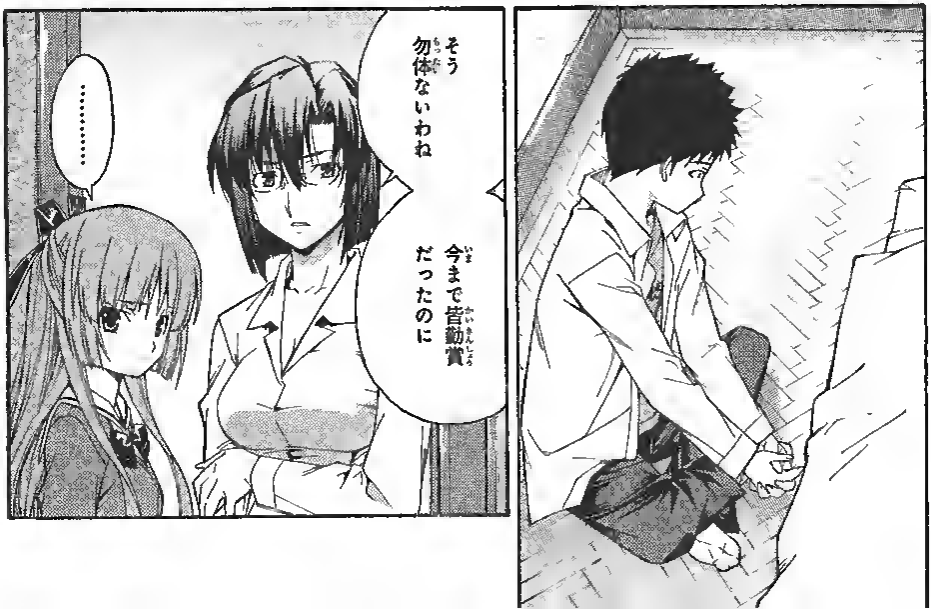

……
そろそろ潮時かもね


真一郎が
止めるから
今まで好きに
させてたけど
本来 妖魔は
封じないと
いけないのよ
そして元いた
世界に還す
それで タマ子は
助かるのか？
さあ

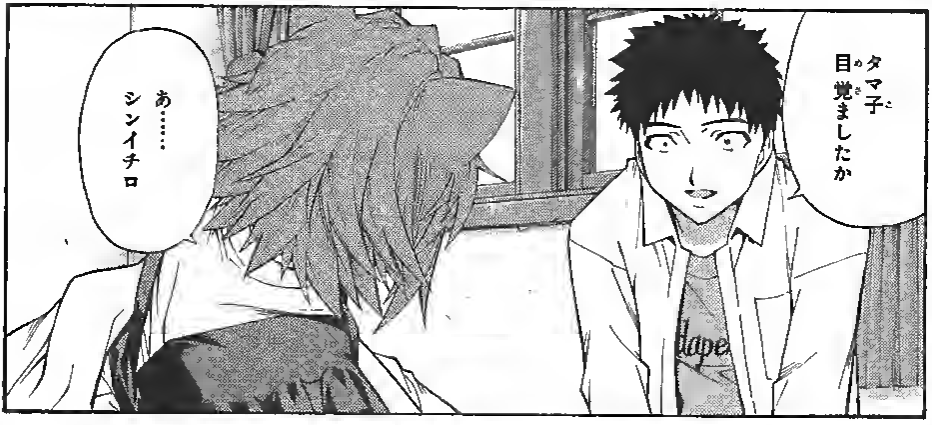

さあ…て
おまえ——
知らないわよ
異界に還された
妖魔がどうなるか
なんて！


でもそれが
決まりなの！
昔からの
しきたりなのよ
……


お話中
悪いけど
そろそろ
支度しないと
学校に遅刻
するわよ
あ…うん
先生
俺は今日は
休みます


そう
勿体ないわね
今まで皆勤賞
だったのに
……


にゃ……


タマ子
目覚ましたか
あ……
シンイチロ


あたし
どうしたんだろ
……
身体が重い
……
いいから
寝てろ
ガッコは？
ん？
ああ
今日は無し

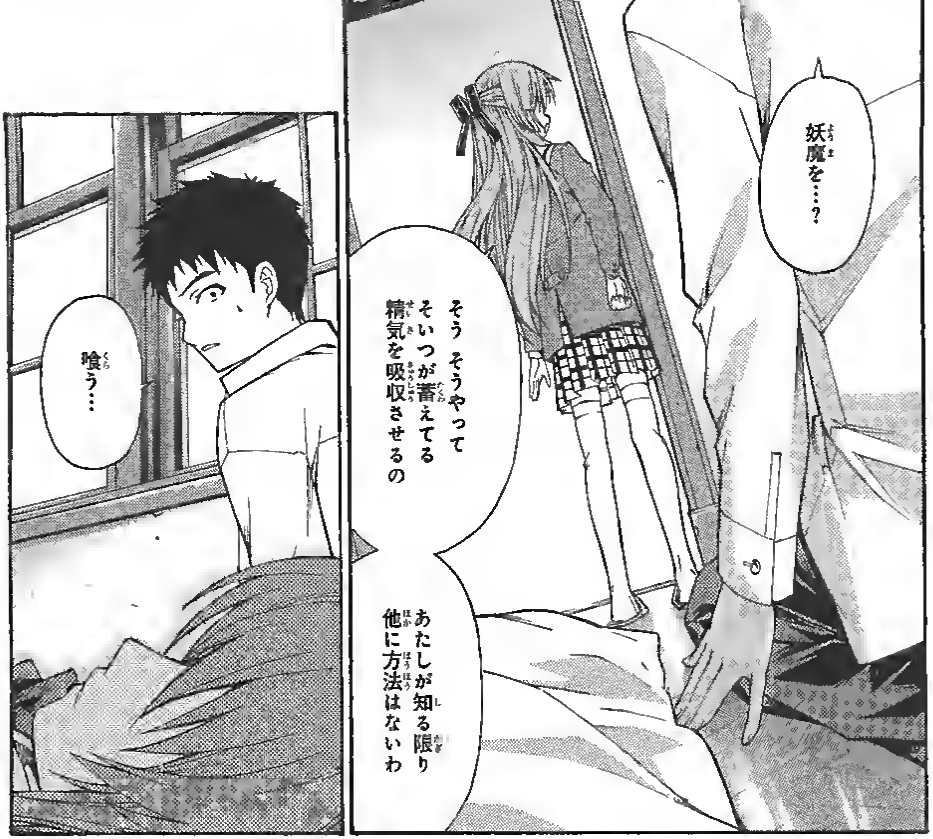

そっか…
じゃあ今日はずっと
シンイチロと一緒だ
あ…ああ
そうだな
こんな弱々しい
タマ子見るの
初めてだ


くそ…
どうにかならないのか
……


どう？
ああ…
今は寝てる


ただいま
――


撫子から
妖魔が出現したって
連絡があった
これから
行くわよ
今日は…
俺はちょっと
――
タマ子を封じるのが
嫌だっていうなら
助ける方法は一つ
他の妖魔を
喰わせる
え…？

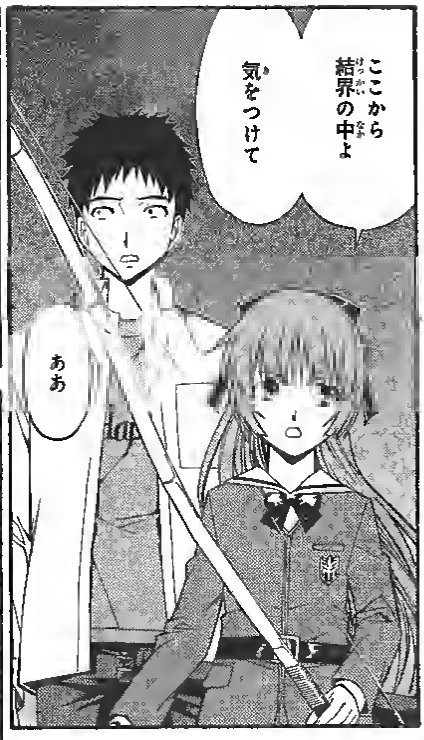

妖魔を…？
そう　そうやって
そいつが蓄えてる
精気を吸収させるの
あたしが知る限り
他に方法はないわ
喰う…


……


でもお前の仕事は
妖魔を封じることなんだろ？
そんなこと
したら――
それで
どうするの？
来るの？
来ないの？


すぐ準備する
ありがとな 朔邪
う…
うっさいわね
足引っ張んじゃないわよ
タマ子…
すぐ戻るからな




ここから
結界の中よ
気をつけて
ああ


きゃあああ…ッ!!!


こっちよ！

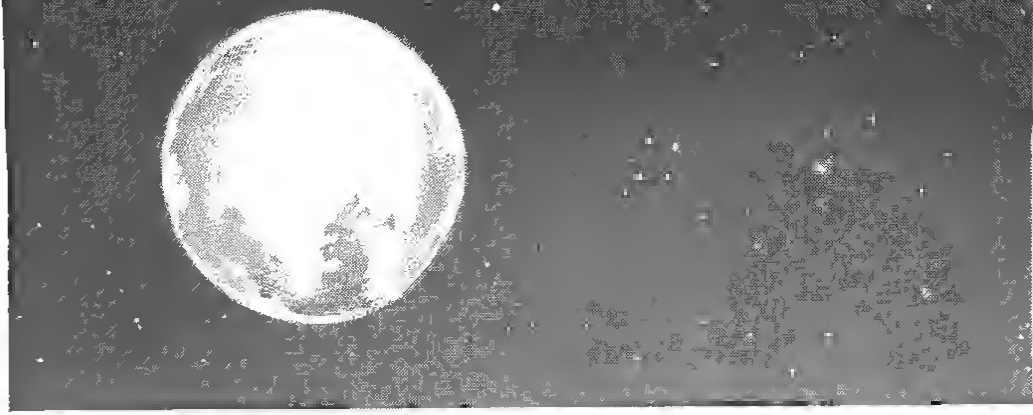

ギ……
ガ……


そこの妖魔
そこから
離れなさい!!


人が…!?
たぶん結界を
張る前から
ここにいた人ね
まったく…最初に
確認するのが
基本なのに

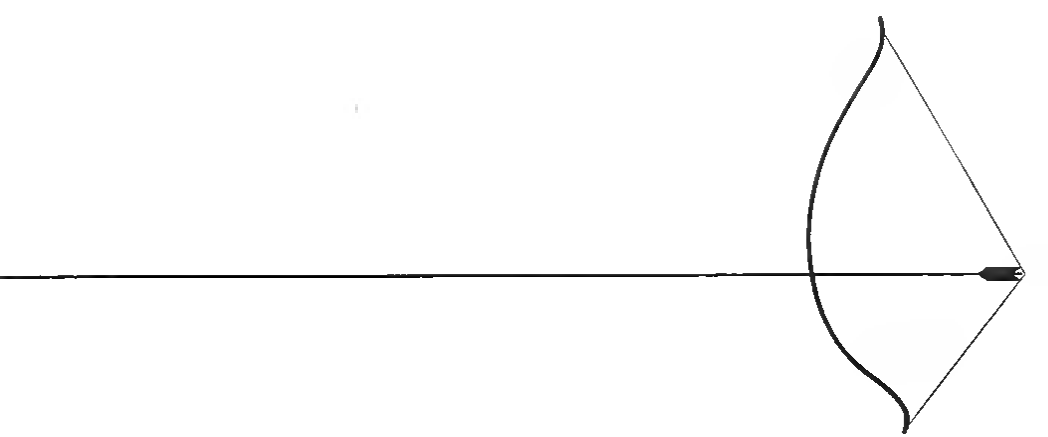

ガ……ッ!!?
ブ……
ふん
大したこと
ないわね

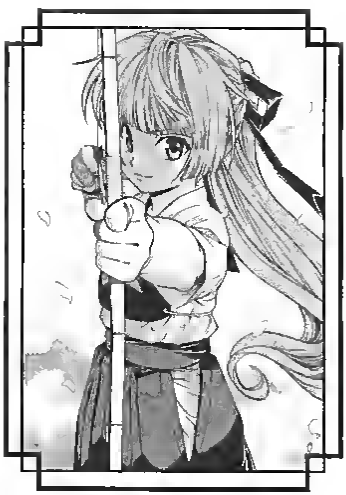

止めよ!!
朔邪!!
ガ……
!?
きゃっ!?






シンイチロ…
どこ？
第拾話 ―了―





第拾壱話 精気②





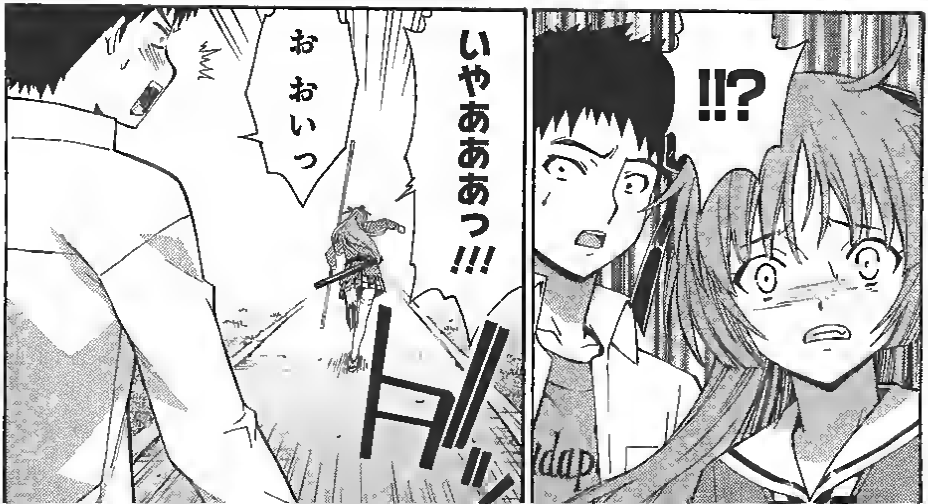



…まあでも
これであいつの
正体が読めたわ
コグマネズミ
さっきみたいな
目眩ましの術を
使うくらいで
大した敵じゃないわ
でも――


どうしたんだ？
ブル
ブル
あ…あたしは
ネズミとか
ゴキブリとか
汚いのが
大っ嫌いなの！
…はあ？
あんな汚い家に
住んでた奴が
言うか？
うっさいわね
見つけたら
ちゃんと退治
してたもん！

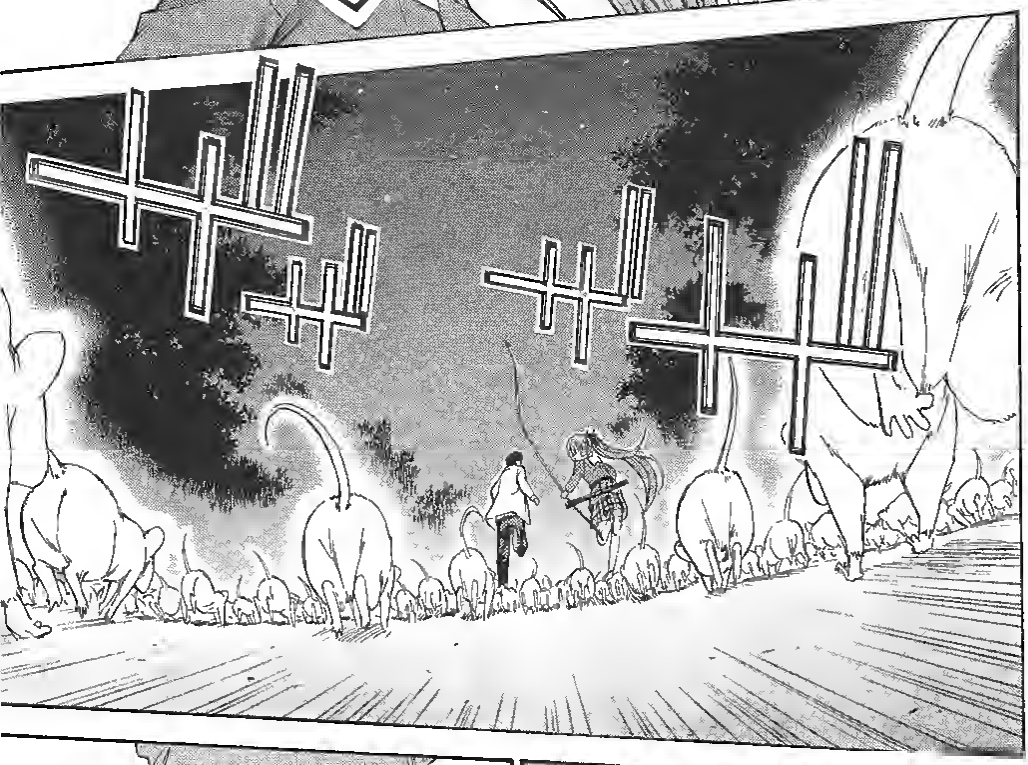

そういや
ゴキブリの刺さった
矢とかあったっけ
とにかくっ
さっさと終わらせて
帰るわよ
真一郎は
危ないから
下がってて
平気なのか？
見くびらないでよ
近づかなきゃ
いいんだから
それにあいつの
使える術なんて
さっきみたいな
目眩ましと
あとは
ネズミを――
そ
そうだ…
#7




!!?
いやあああっ!!!
おおいっ

あれが
もう一つの
能力か…!?

そうよ
ネズミを
操る——



あ——もうっ
ネズミの分際で
あたしに楯突くんじゃ
ないわよ!!

朔邪!?

鳥津流弓霊術

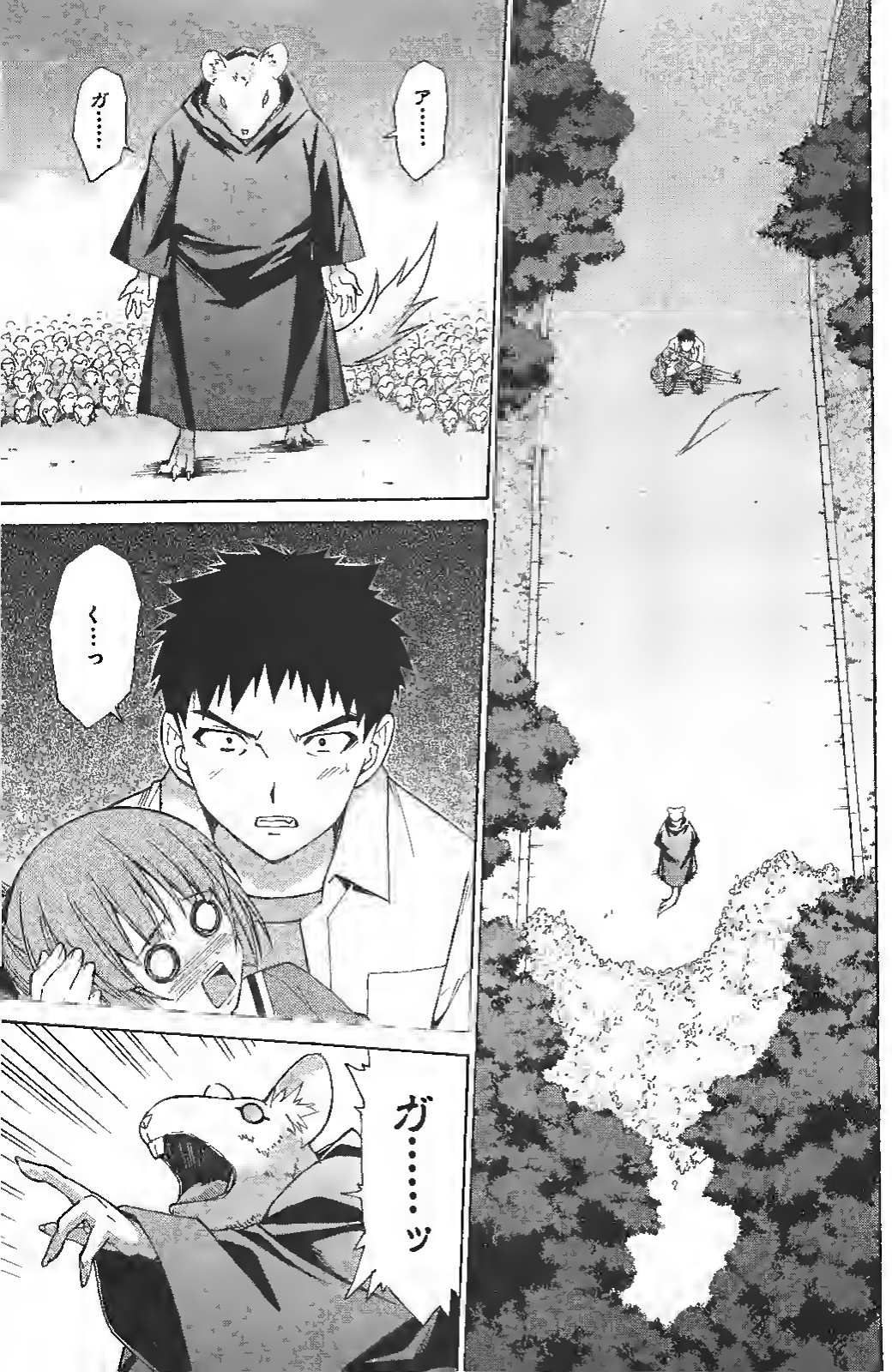
叢雨——


ナナ


!!!
ヘロヘロ


ハハハ
朔邪!?


おい…
しっかりしろ!


ア……
ガ……
く……っ
ガ……ッ


グァッ!?


シンイチロに
手を出すな
――っ!!!


ネ…
ネコマダ…?


タタマ子
おまえなんで
――


だって
今日はずっと
シンイチロと
一緒だもん

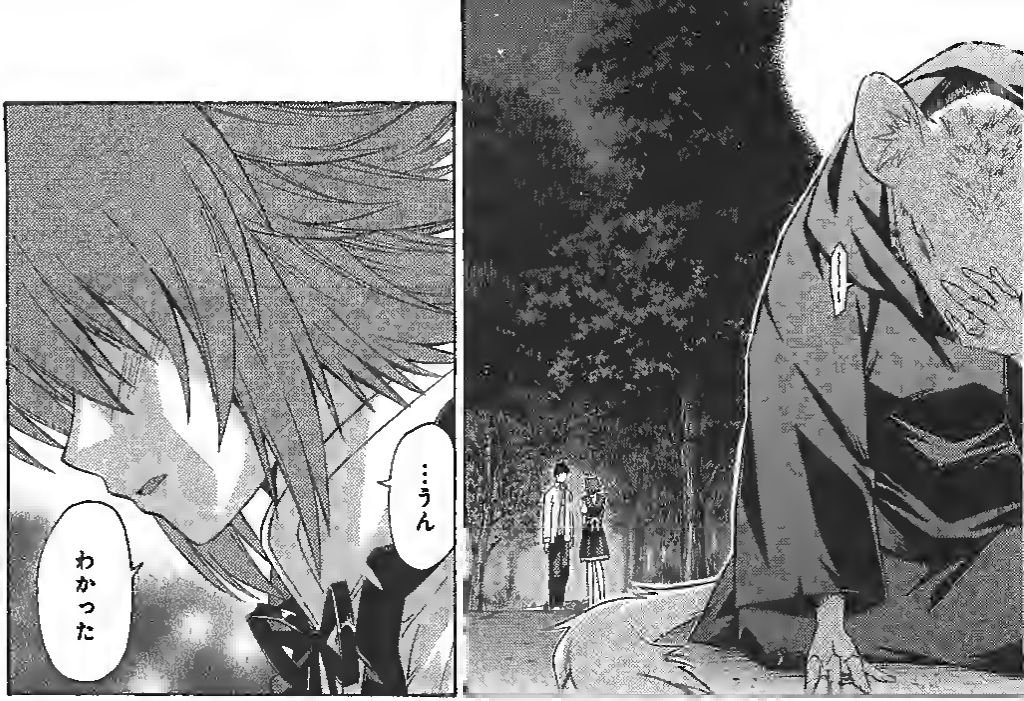

身体は大丈夫
なのか…?


ガク
!?
バ…バカ
おまえやっぱり
く…ッ

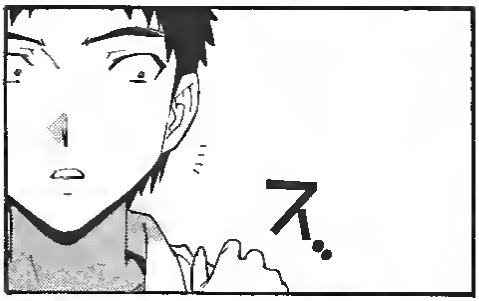

朔邪がこれじゃ……
他に方法はない……！
キュ
タマ子が弱ってるの気付かれたか…
dapes


タマ子
こっちに来るんだ
にや？
ガ…ッ


な…なに
シンイチロ？
…タマ子
ヨロ…
俺の精気を吸え
にゃ…
でも…
精気を吸えば力が元に戻るんだろ？
朔邪がこんなじゃ他に方法がない
そしたらシンイチロが…
命令だぞタマ子!!


…うん
わかった

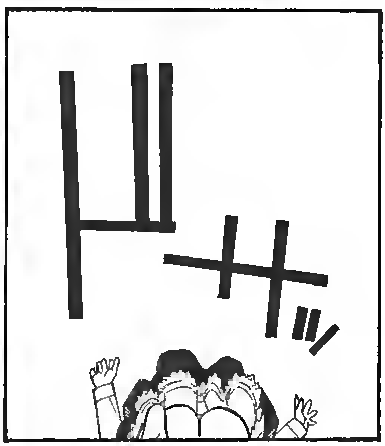

それじゃシンイチロ
ちょっとだけ
もらうね
おおう
遠慮しなくて
いいぞ

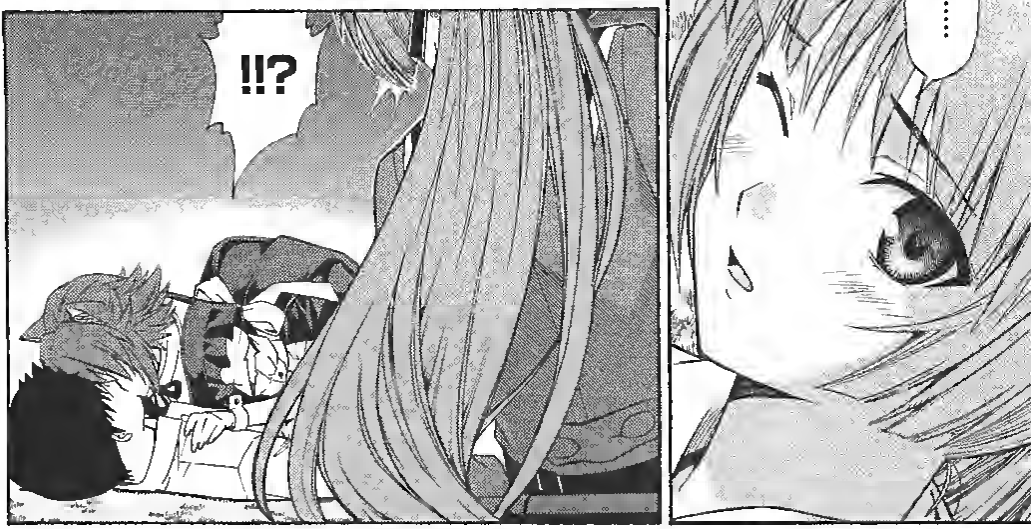



そういや
精気を吸うって
どうやるんだ？
吸血鬼みたいに
血を吸うとかだと
きついな……

え……？






ん……
!!?


あ…あ
あんた達
なにやってんのよ!?


カァァ
う…
クチュ
クチュ


コク…
ん…
ふう
シンイチロの…
すごく濃くて
おいしい
ガ…？
あ…

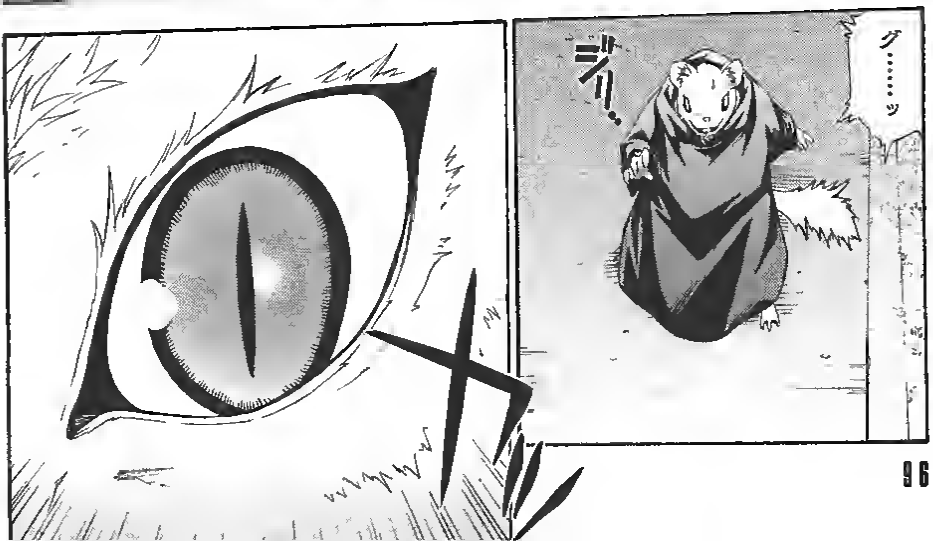

こんなの初めてだニャ
へ…変化した…？
う…

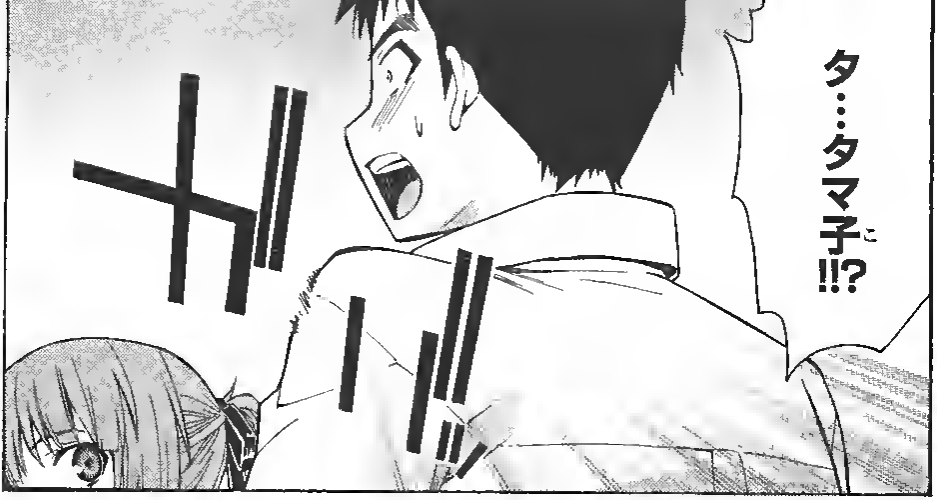

ア……
ガ……
ゾク
ゾク
ゾク

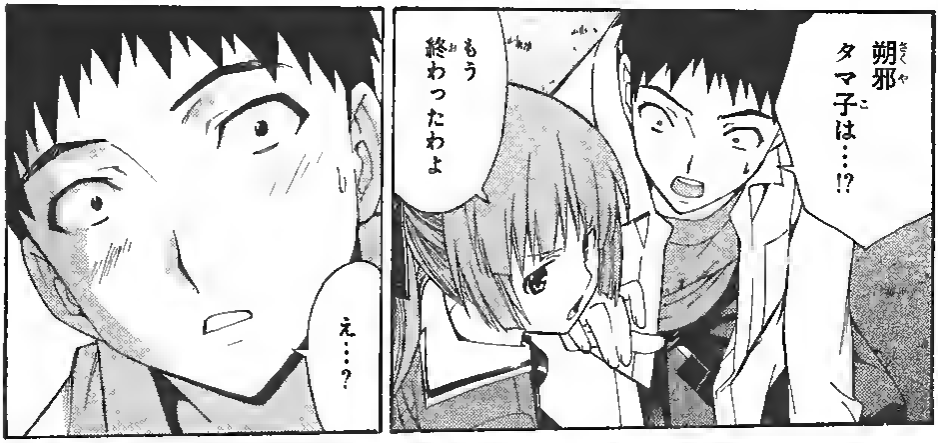

逃がさない
ニャ
ドド


!!?




グ……ッ
ビリ…


タ…タマ子!!?

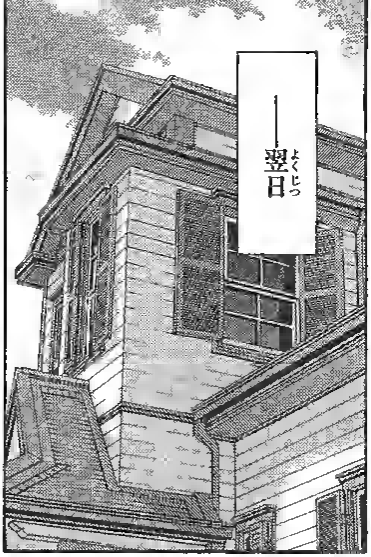

朔邪
タマ子は…!?
もう終わったわよ
え…?

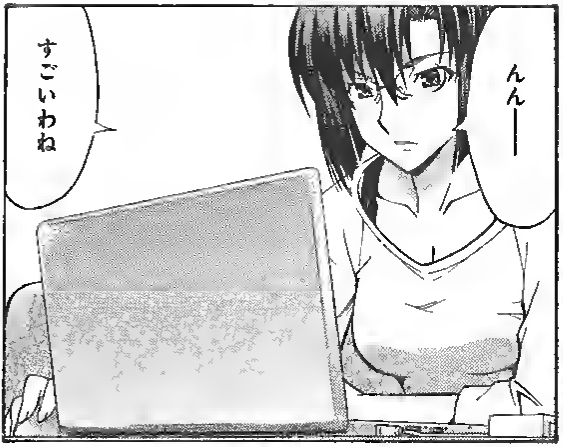

ミシッ
く…喰ったのか…?
adapes




はい
シンイチロ
これあげる


ば…馬鹿
そんなの持って
こないでよ！
でもおまえ
これ封印しないと
いけないんだろ
……？
真一郎
呪符を渡すから
代わりに貼って
家まで
持って帰って！


——翌日

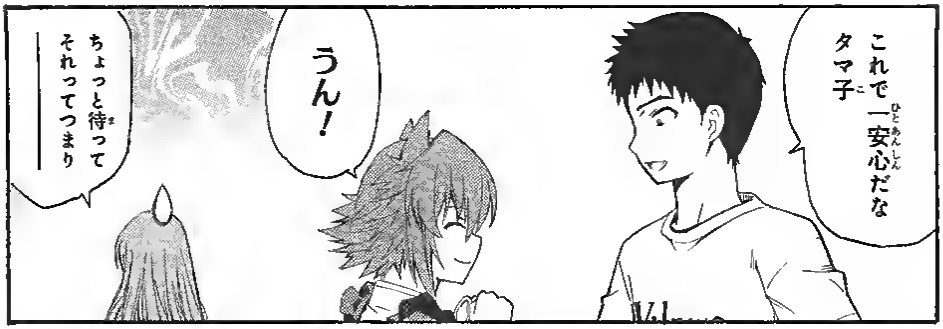

んん——
すごいわね


ほぼ精気が回復してるわ
あれだけ弱ってたタマ子ちゃんをすっかり回復させるくらい与えたんでしょう？
ええ
まあ…


普通なら回復に数ヶ月はかかるところなのに
これも真眼の力かしら？


先生…
それってつまりタマ子に精気を与え続けても大丈夫ってことですか


そうねたぶん問題ないわ
よかった…
な…

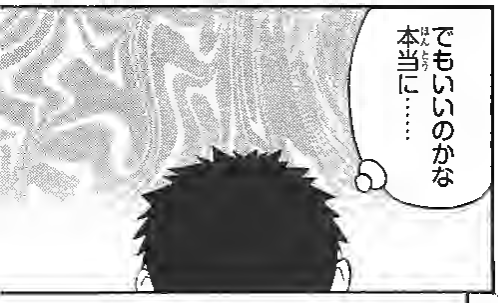

これで一安心だなタマ子
うん！
ちょっと待ってそれってつまり

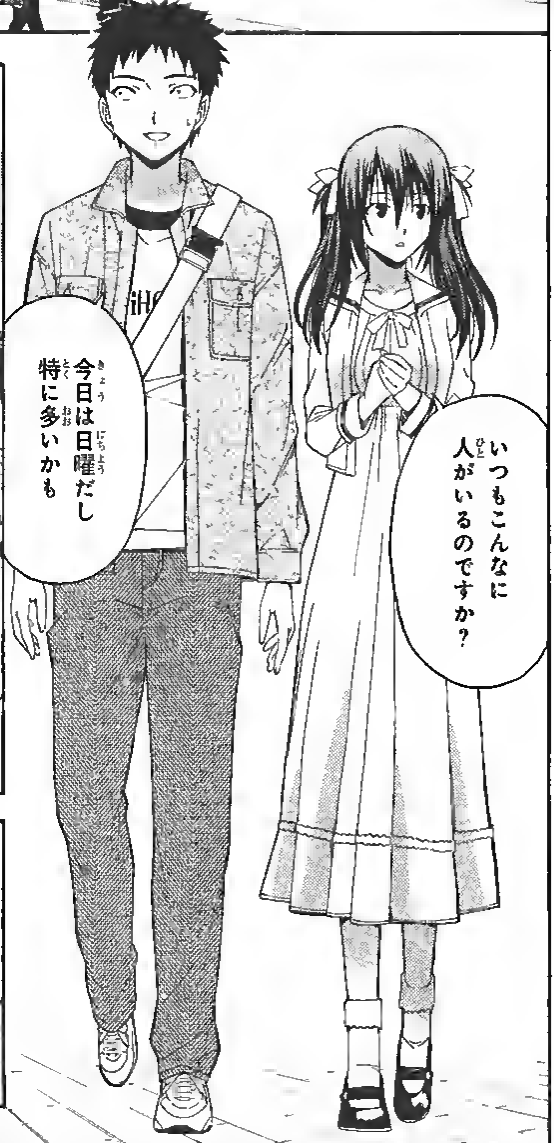

てことはその度にまたタマ子と
どしたの？シンイチロ
ビュッ
真一郎テレテレしてんじゃないわよ！
し…してないって！


シンイチロ
大好き♡
Vilniu
第拾壱話 ―了―

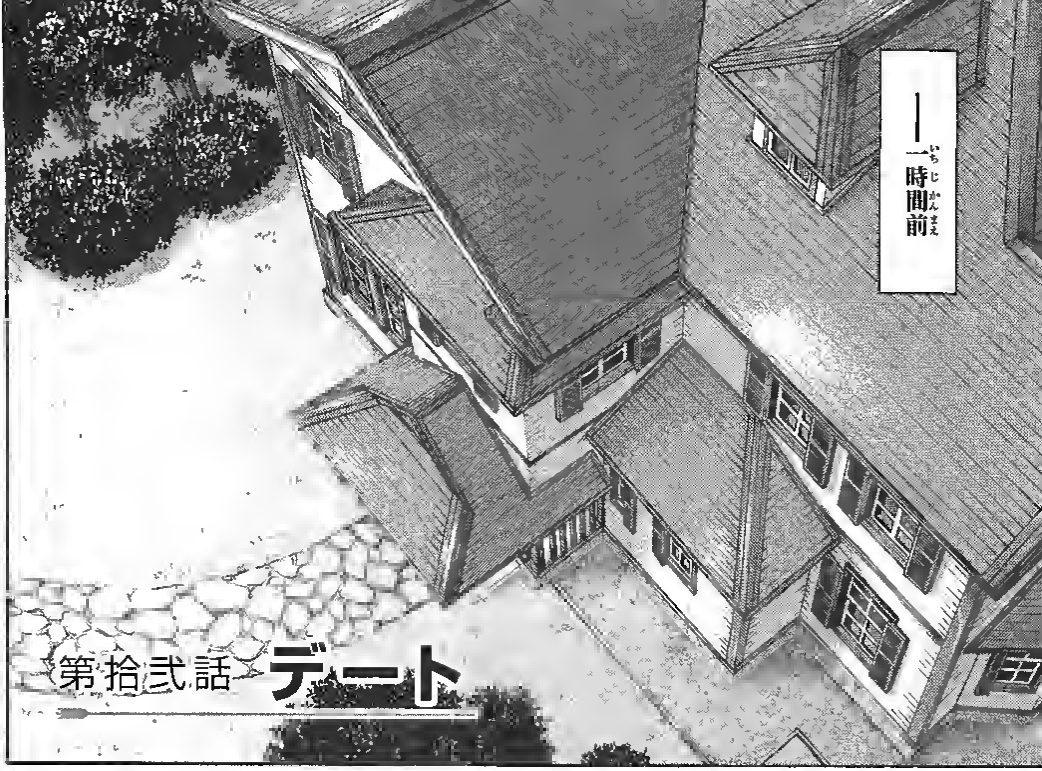


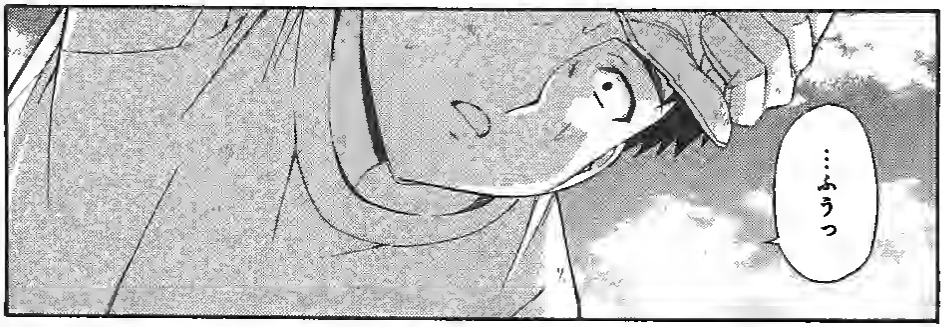


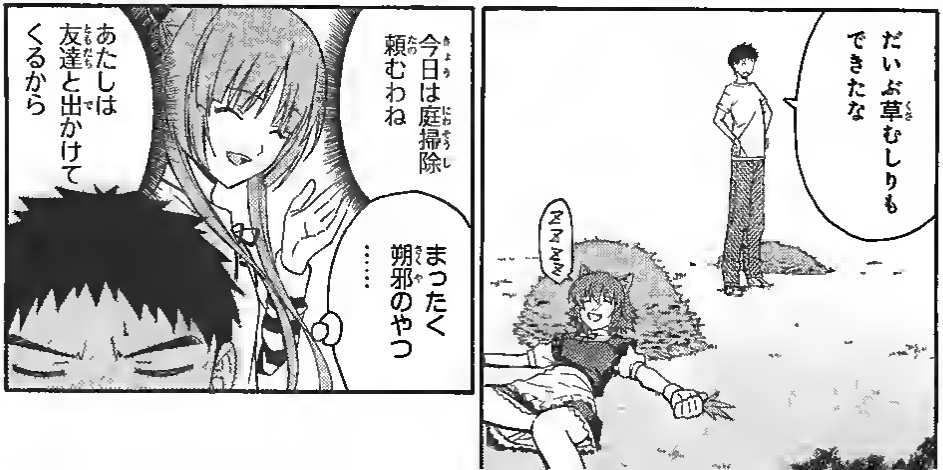




第拾弐話 デート

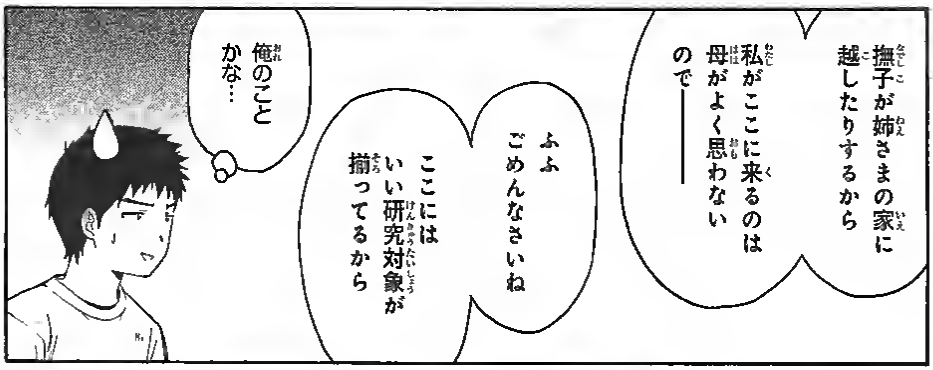

――一時間前
第拾弐話 デート

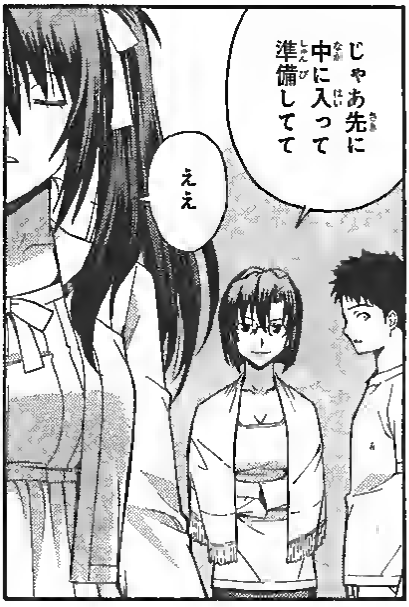

…ふうっ


だいぶ草むしりもできたな
フアアアン
今日は庭掃除頼むわね
まったく朔邪のやつ……
あたしは友達と出かけてくるから


それでは五時に迎えに参ります
？
ええ
お邪魔……します
あ須世璃……さん？
ご無沙汰してます真一郎さま
…姉さまは？
ああ
今日は友達と遊びに行ってる


いらっしゃい
少し遅かったわね
撫子


撫子が姉さまの家に越したりするから
私がここに来るのは母がよく思わないので――
ふふ
ごめんなさいね
ここにはいい研究対象が揃ってるから
俺のことかな…


じゃあ先に中に入って準備してて
ええ

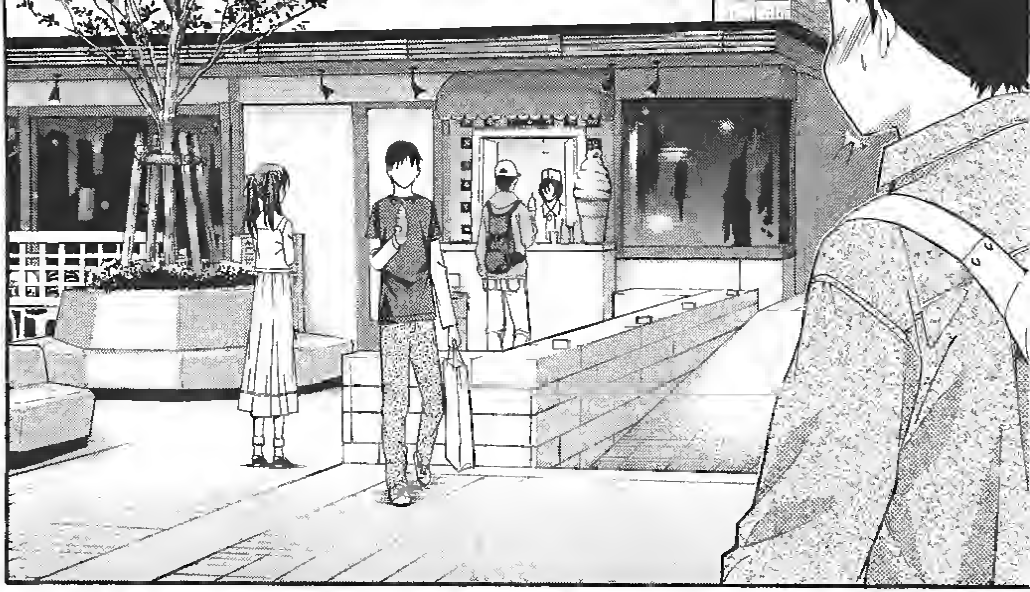

須世璃さん今日は何の用で？
ああ勉強よ勉強
あの子学校に行ってないから


行ってない？
あの子の母親の教育方針で小さい頃から一度も……ね
だから私達が分担して教えてるってわけ
外部の人間と接触したらどんな悪影響を受けるか分からないからって
それで学校どころか一人で外出したこともないのよね
正直そこまでしなくてもって思うけど
まあ口を出せる立場でもないし
じゃあひょっとして友達とかもいないのかな…
なんか…可哀想だな


……そうね
浅野くんに
任せてみるのも
アリかな
須世璃
今日は数学の
予定だったけど
変更して社会勉強に
しましょう
……
社会勉強？
先生？

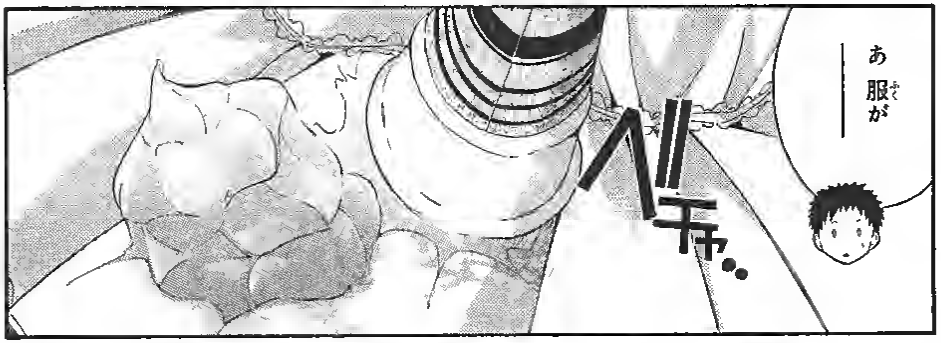

P
乗入車


二人でどこか出掛けてらっしゃい
五時までには戻ってきてね
こんなことして…
バレたら問題にならないのかな
でも一人で外出したことないって本当なんだな
切符の買い方も知らなかったし
?
…とにかくこうして歩いてるだけじゃしょうがないし
どこか行く場所決めないと
須世璃さん
どこか行きたい所とか――
…あれ？




須世璃さん!!
……あ
きゃっ
すすいませ


ごめん
大丈夫？
は…はい
須世璃さん
すいません
……
あ……


あ 服が
——


どうしよう…
拭いたけど
染みが——
iHCK
……
それじゃ服を
買いに行こうか
…え？


代わりの服を買って
それからソフトクリームを食べよう
……
はい


UNIQLO


女物はこの辺でいいのかな
あの…真一郎さま

なに？
他の店のほうがよかったかな？
私…自分で服を買ったことがないので
なにを選べばいいか――
そ…そっか
ん――
ほ ほら このへんのとかいいんじゃないかな？
¥1980
そうですか？
真一郎さまがそう仰るなら
それじゃあっちが試着室だから
試しに着てみて
シャッ
……ふうっ
真一郎さま
……


この服
胸元がきつくて
……
!!?
そ…そんな格好で
出てきちゃ駄目!!
あ……
真一郎さま
……？
もう少し大きめの
持ってくるから
そのまま待ってて
び…びっくり
した
でも——
やっぱり
大きいな
ねえ
そろそろ映画館
行かないと
時間ないわよ？
だいじょーぶ
ちょっと覗くだけ
だから


何度それに騙されたか…
あははっ朔邪きびしいな――
ふふ 私がちゃんと時間見てるから
!!?


な…なんでこんなとこで――
どうしたのですか？
いや朔邪が――
姉さま？
ここに？

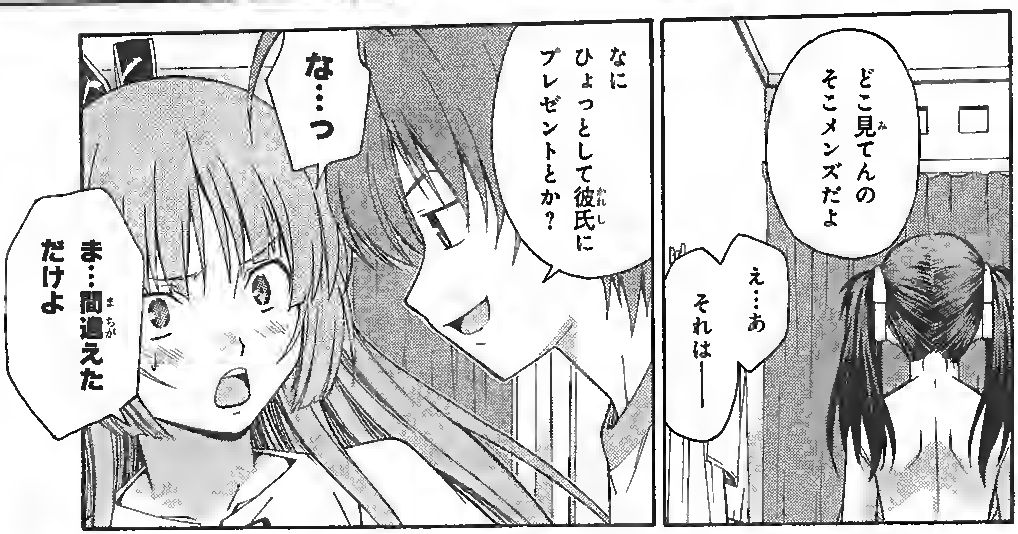

まずいこんなとこあいつに見られたら――
朔邪もなんか買うの？
ち…ちょっと見てるだけ
!?

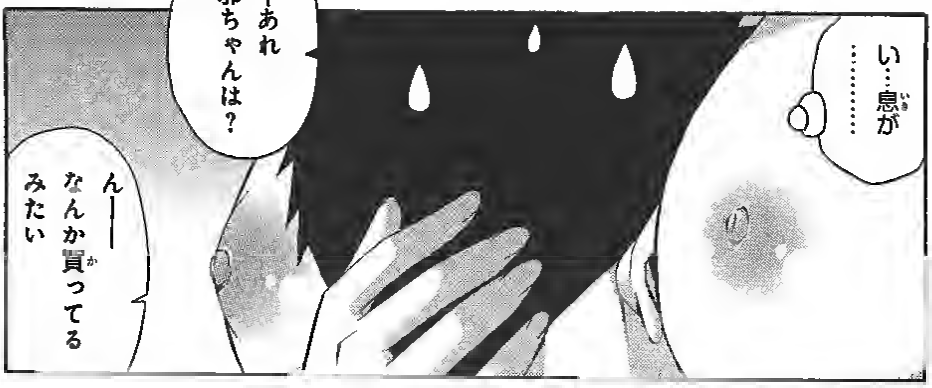

す…須世璃
……さん？
姉さまに
見つかっては
いけないので
しょう？
い…いや
でも……
ちょっと待って
体勢を変え
――
ﾄﾞﾙﾙﾙ!!

ヘロ〜ン
△※○□♨ΠΩ
!?
ドアー!!

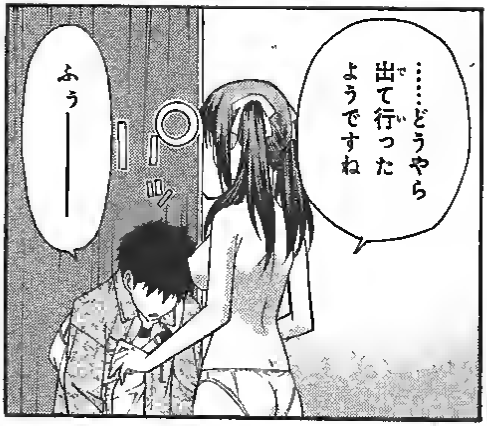

……
――朔邪
どうかした？
ん……
なんでもない
気のせい
よね


ドン
ドン
……あれ
朔邪？

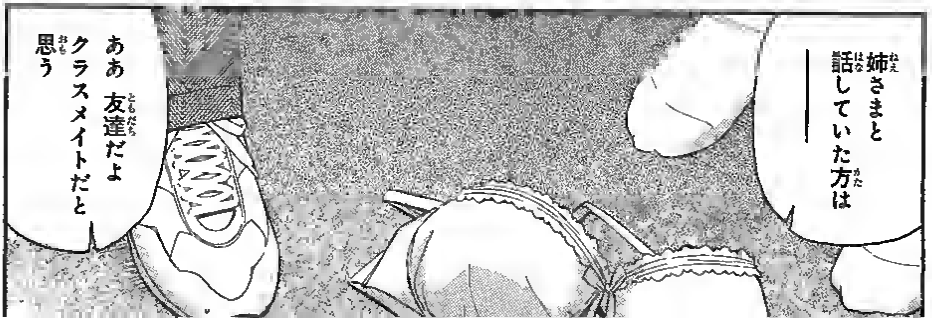

どこ見てんの
そこメンズだよ
え…あ
それは——
なに
ひょっとして彼氏に
プレゼントとか？
な…っ
ま…間違えた
だけよ


い…息が……
――あれ 朔邪ちゃんは？
ん――なんか買ってるみたい


やっぱプレゼントね
だ だから違うって！
あ買い物終わった？ それじゃそろそろ行きましょう

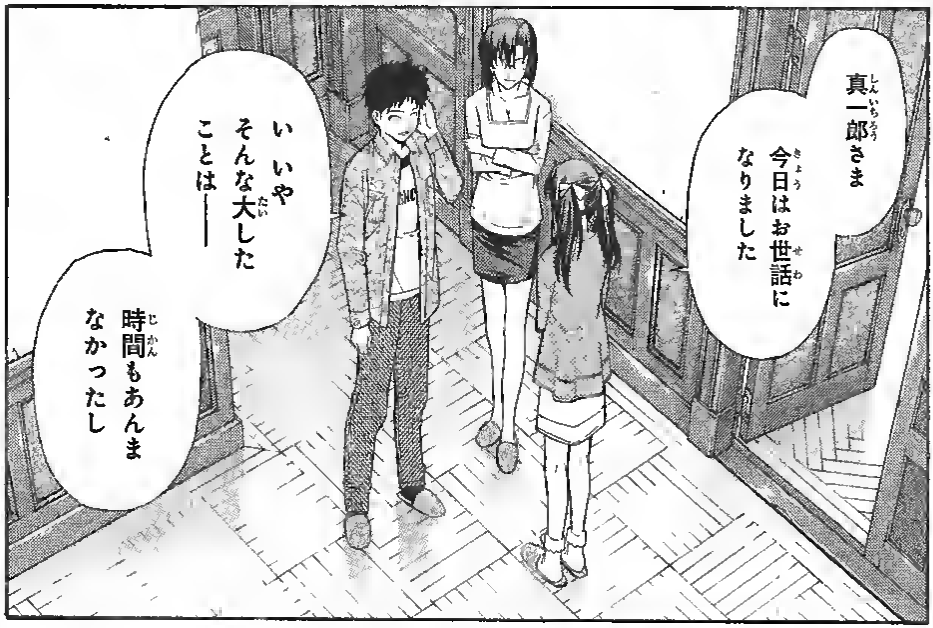

……どうやら出て行ったようですね
ふう――

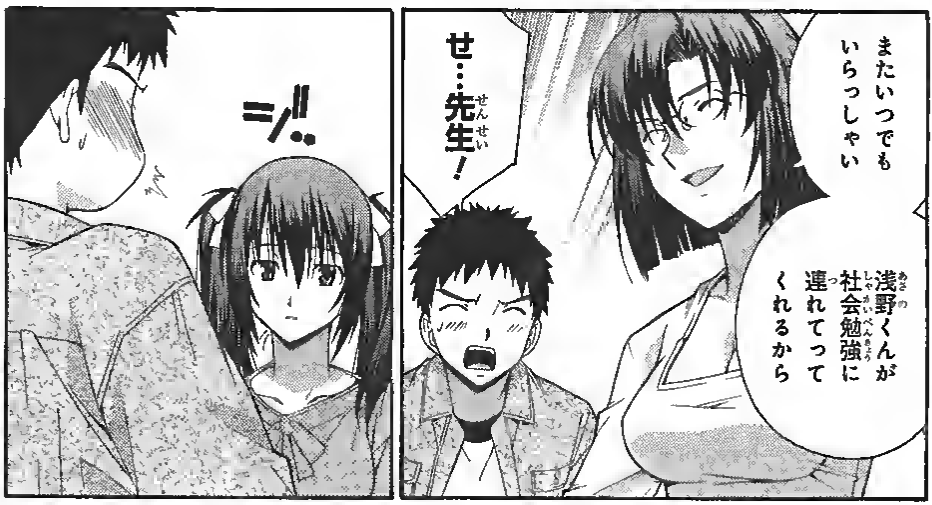

危なかった……
一時はどうなるかと――


姉さまと話していた方は――
ああ 友達だよクラスメイトだと思う


友達……
！
そうか
須世璃さんには
――
…さ それじゃ
早いとこ服を
買って
ソフトクリーム
食べに行こう
でもその前に
下着直して
もらえると
いいんだけど
――
…あ
……はい


須世璃
迎えが
来たわよ


真一郎さま
今日はお世話に
なりました
いいや
そんな大した
ことは――
時間もあんま
なかったし


またいつでも
いらっしゃい
浅野くんが
社会勉強に
連れてって
くれるから
せ…先生！
ﾆﾊﾞ!!


お…俺でよければ
いつでも――
……
その時はまた
宜しくお願いします
ペコリ
あいえ
こちらこそ
――
須世璃
ええ
真一郎さま


それでは
また
ごきげんよう


なーに
顔赤くしちゃって
朔邪が
怒るわよ


な…なに
言ってんですか
先生……!!
ふふ
冗談よ冗談

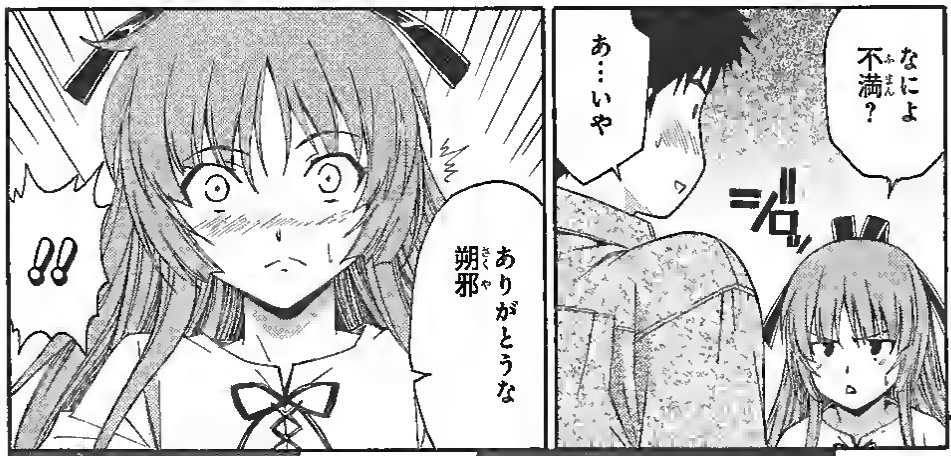

あ…
ううん


ただいま
――
あ――
お腹すいた
真一郎 はやく
ご飯持ってきて
あ…ああ
なんだ遅いから
食べてきたかと
思った


あんたがどうせ
用意してるからと
思って
誘われたけど
断ってきたの
そんなに気を
遣わなくて
いいのに……
もったいない
でしょ！
食費はあたしの
お金なんだから


……ん？
ハートデック ソックス
HEARTECH Socks
¥980
MEN
25～27cm
なんだ
これ？
見て
分からないの？
靴下じゃない


いや それは見れば分かるけど……
あんたへの御褒美よ
まあ仕事も頑張ってくれてるし
…そうか
あの時買ったのって――


なによ不満？
あ…いや
ありがとうな朔邪
!!


ち…ちょっとそこは「もう少し高いのにしろ」とか言うとこでしょ！
いやだって普通に嬉しかったし……
あ――もうっ真一郎のバカ!!
そういえばあんた今日出掛けてないわよね…？
えっ!?
も…もちろん！

第拾弐話 ―了―







第拾参話　対立




鎌鼬(かまいたち)!!
く……っ


し…
しまった……
須世璃(すせり)さま!!?

第拾参話 対立




こら――っ
タマ子!!
またか…
キュッキュッ


あんた
あたしの下着
盗ったでしょ!


だってあたしの
破けちゃったん
だもん
一枚くらい
いいじゃニャい!
いいわけ
ないでしょ
バカ猫!


脱ぎなさい!!
にゃあっ!!


おい
なにやってんだ!
あ シンイチロ
助けて


朔邪
止めろって
うっさい!


うわっ!!
ニャッ!?


ちょっと
静かにしてよ
仕事してるんだから
にゃあ
あたた…
ん…？
ちょっと真一郎
それは――
ピラ

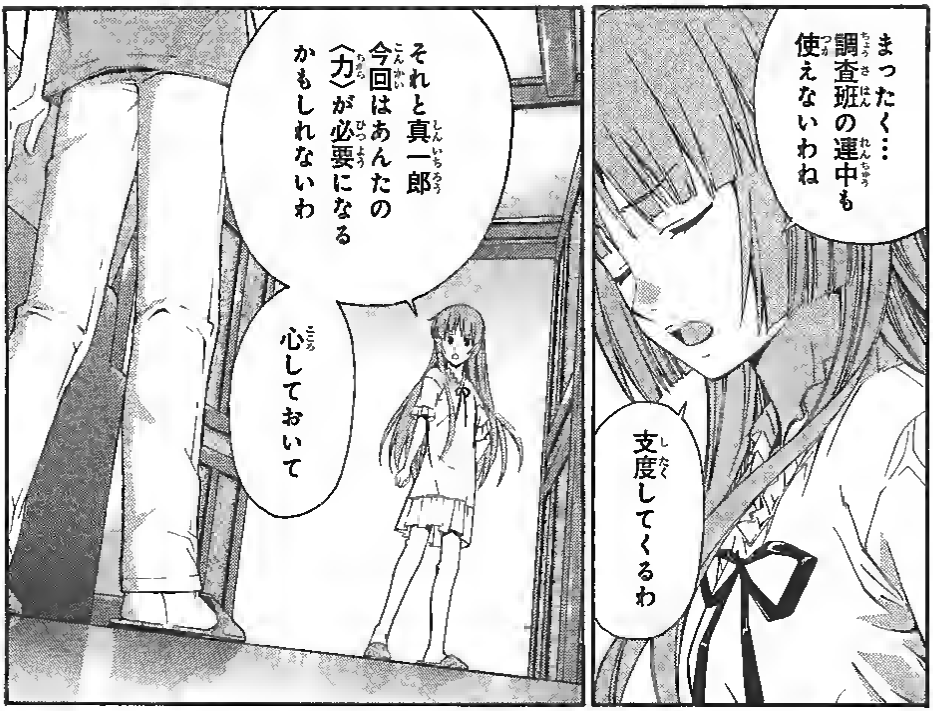

あ…

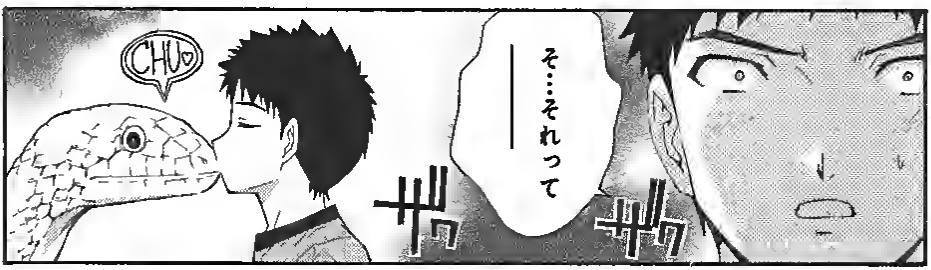

ちょっと待て
そんなところに
立ってるほうが
——
この……


うっさい
馬鹿！
スケベ!!
こら——っ
シンイチロを
いじめるな!!
はう……
プルル


……はい
茉莉
どうしたの？
タマ子
今度新しいの
買ってやるから
あたしは別に
なくても
いいんだけど…
朔邪
妖魔が出現したわ
急いで支度して
須世璃が
負傷した
らしいわ
!!
須世璃さんが!?

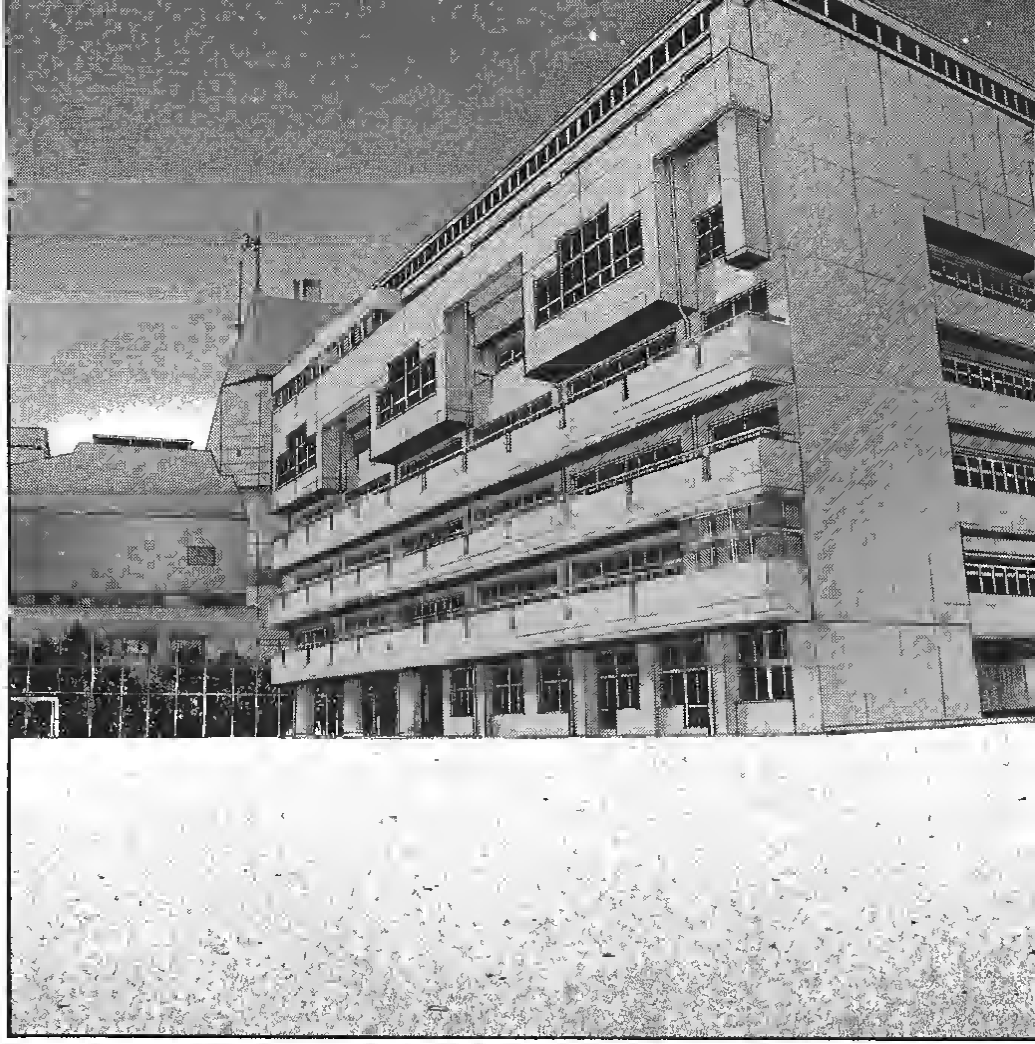

……妖魔は？
大蛇…らしいわね
話を聞く限り
ウワバミ!?
なんでそんなのが――
強いのか？
かなり…ね
でもなんで――
妖魔がこっちに来る時次元の裂け目である〈門〉を通ってくるってのは話したわよね？
強力な妖魔ほど大きな〈門〉を必要とするのよ
普通は初期のうちに発見して塞いじゃうからウワバミ位の妖魔が現れることなんて滅多にないんだけど……


まったく…
調査班の運中も
使えないわね
支度してくるわ
それと真一郎
今回はあんたの
〈力〉が必要になる
かもしれないわ
心しておいて


CHU
そ…それって
――


安心して
シンイチロ
あたしが守って
あげるから
おう
頼むぞタマ子
浅野くん


これを
刀…？
前に浅野くんが真名を見抜いた刀よ
あ…ああ
夜叉王…だっけ
それを持っていくといいわ
でも俺刀の使い方なんて……
それでもあったほうが心強いでしょ
浅野くんちょっといいかしら？
え？
はいはい



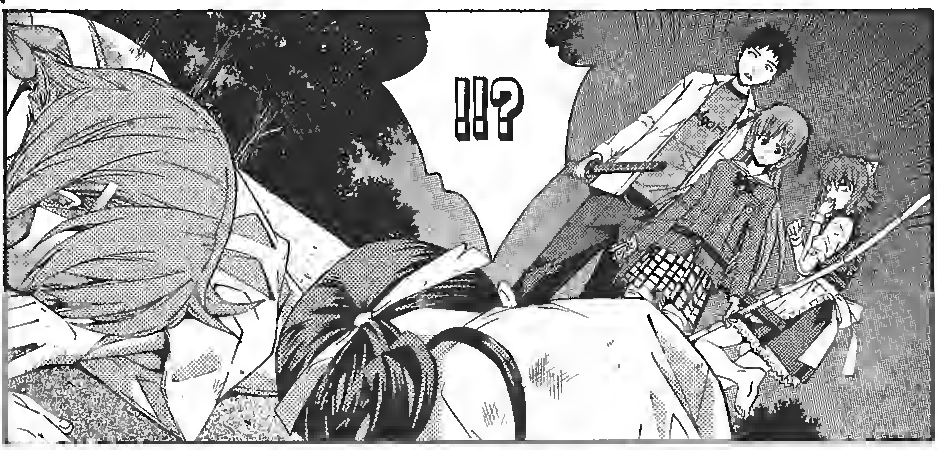
学校…？

こんな街中に出てくるなんて

妖魔は人間の集まる所は避ける傾向があるんだけど

かなり凶暴な奴みたいね


朔邪も
このクラスの
妖魔を相手に
するのは
初めてなのよ
内心では不安だと
思うわ
できる限りフォロー
してあげて
あ…っ!?


!!?


し死んでる……?
精気を奪われてるだけよ


この子達須世璃の付き人だわ
え?


それじゃ須世璃さんは……


逃げなさい
バカ!!


タマ子も気をつけるのよ
わ…分かってるニャ！
いたた…
ちっ 堅い…
もっと矢に霊力を込めないと
真一郎は距離をとって！
タマ子は暫くあいつの足止めを！
にゃ!?


あたしに命令するな！
あたしに命令していいのは
タマ子
頼むぞ!!
にゃ……
任せてシンイチロ!!


よーし……
ギリ ギリ ギリ
なかなか
頑張るじゃない
タマ子
!!
にゃっ!?


タマ子!?
にゃ…
にゃにこれ……
体が……
しまった!!
気をつけてこいつ毒を持ってる!
くそッ

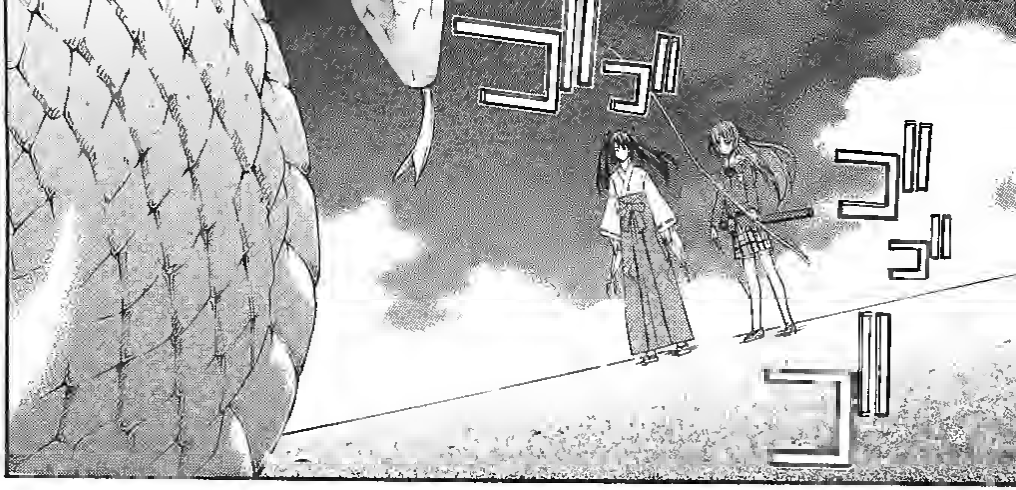

タマ子から離れろ!!
ビリ
ビリ
ビリ
堅い……!
あ……


真一郎
今のうちに
離れて！
あ…っ


ヒュウ
シュウ
傷が……
なんて回復力……
ニヤア
鎌鼬!!

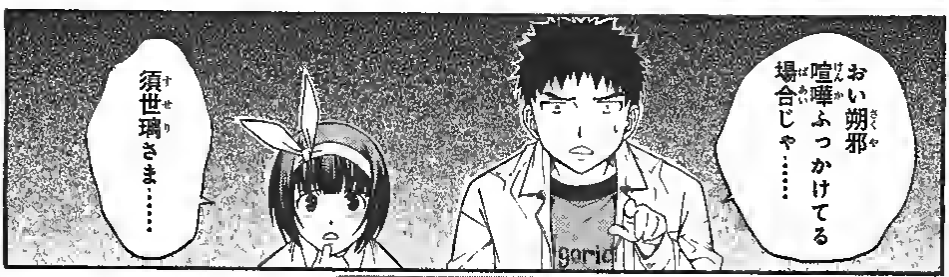

す…須世璃!?
……姉さま
ここは私の
管轄です
お引き取りを


な……
あんたが
やられたって
いうから来て
やったんじゃない！
あんたこそ
引っ込んでなさいよ
それは誤報です
誰がそんな――
待ってください
須世璃さま
まだ傷の
手当てが
――
須世璃さん
……


ゴゴゴゴゴゴ

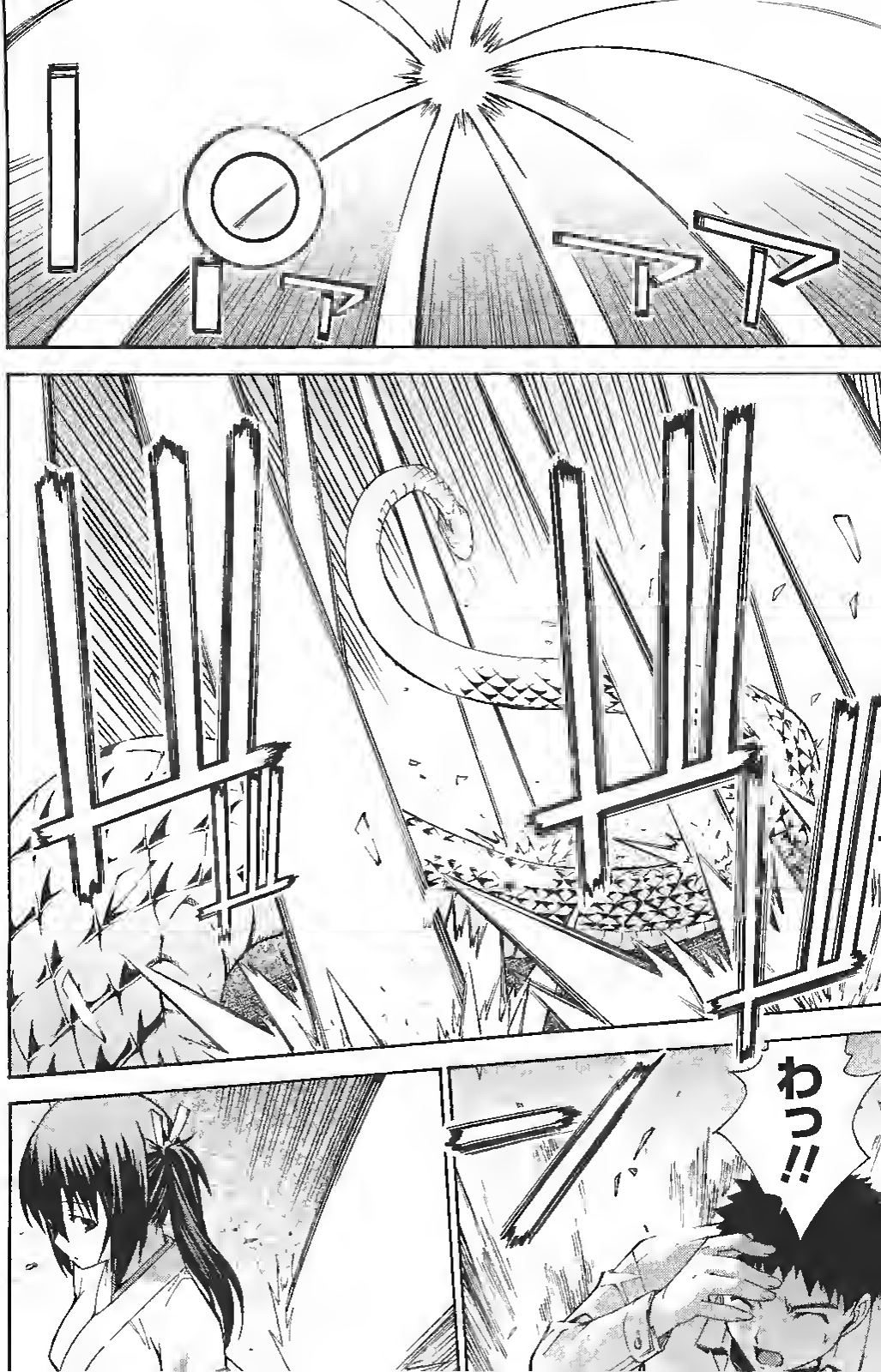



……ふん
なら勝負しよう
じゃない
どっちが先に
こいつを倒すか

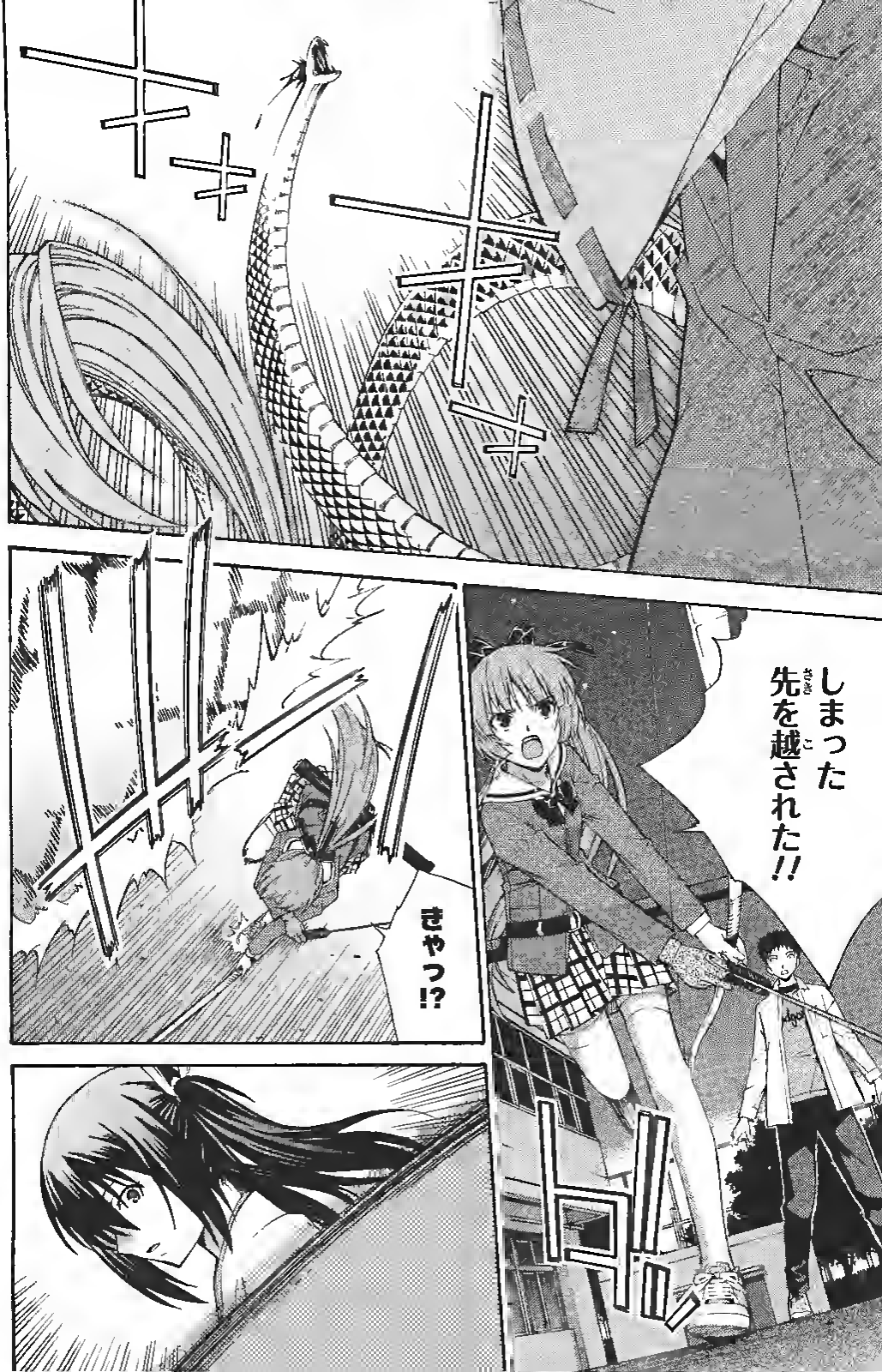

おい朔邪
喧嘩ふっかけてる
場合じゃ……
須世璃さま……

第拾参話 ―了―


第拾肆話 共闘
勝負とか…
なに言い出すんだ
朔邪のやつ
そんな事してる
状況じゃ――
くっ


わっ!!


おおい
危ないだろ！
須世璃さんにも
当たりそうに――
うっさいわね！
そんなの構ってる
余裕なんて無いの
あっ
鎌鼬ではあの鱗に
傷をつけることも
できない
鎌鼬!!
だから狙うのは
剥き出しの
――


しまった
先を越された!!
きゃっ!?


が…っ!!?
真一郎さま！
なぜ私のことを……
真一郎さまは姉さまの味方なのでは――
そ そんなの……


そんなの関係ないよ
敵とか味方とか……
島津家の事情なんか
知ったことか!!
目の前で須世璃さんが
危ない目にあってんのに
放っておけるわけ
ないだろ!!


ちょっと真一郎
大丈夫!?
なんて無茶なこと
してんのよ…
あたし達は霊力を
体の周りに
防御壁として
張り巡らせてるけど
あんたは――
……あ
ニュウウウ
……
今の攻撃も
時間稼ぎ程度にしか
ならないようね


な なあ
もっとこう…二人で
協力したほうが
いいんじゃないか？
な…っ


なに言ってんのよ
そんなこと
出来るわけ——
でもそうでも
しないと
あれ無理だろ！


……
だいたいあたしが
承知したって
須世璃がそんな
こと——


…私は
構いません
真一郎さまが
そう仰るなら


ち ちょっと須世璃
なにアンタあっさり
——
朔邪

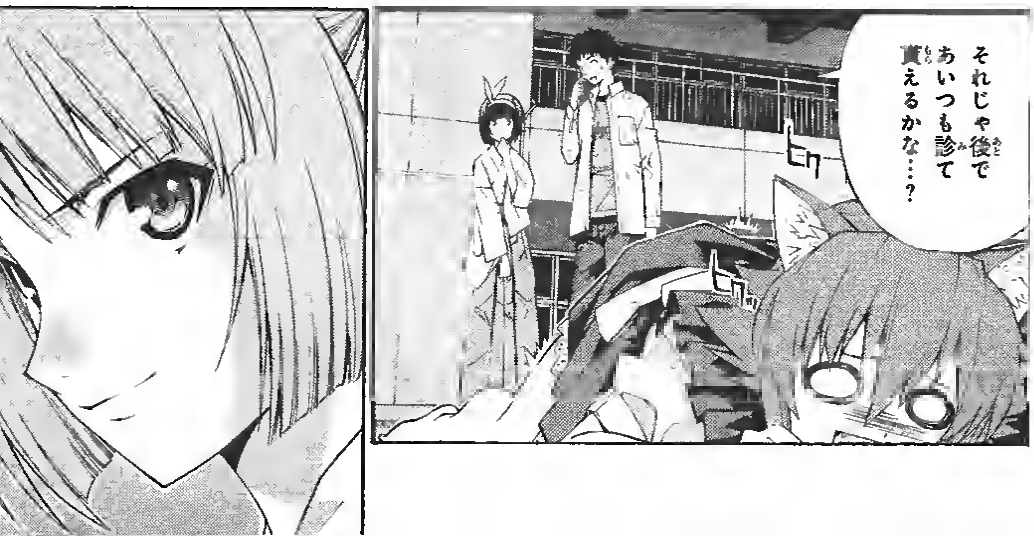

わ…分かったわよ！
どうせあんたは
真主の力であたしに
命令することだって
出来るんだし――
いいや
そんなことは
――
あの術って
まさか…
でもアレはまだ
未完成で――
それは承知して
います
…姉さま
あの術を使って
頂けますか？


残念ですが
私の式神では
あれに有効な
攻撃手段が
ありません
姉さまだって
他に方法は
無いはずです
う……


樹齢3000年の桃木から
削り出した
特製の破魔矢
…しょうが
ないわね
こいつで
ケリをつける

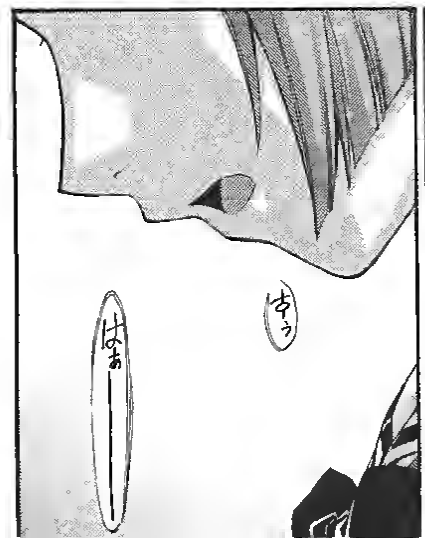

茉莉
はいっ
真一郎さまの
怪我の手当てを
分かりました！

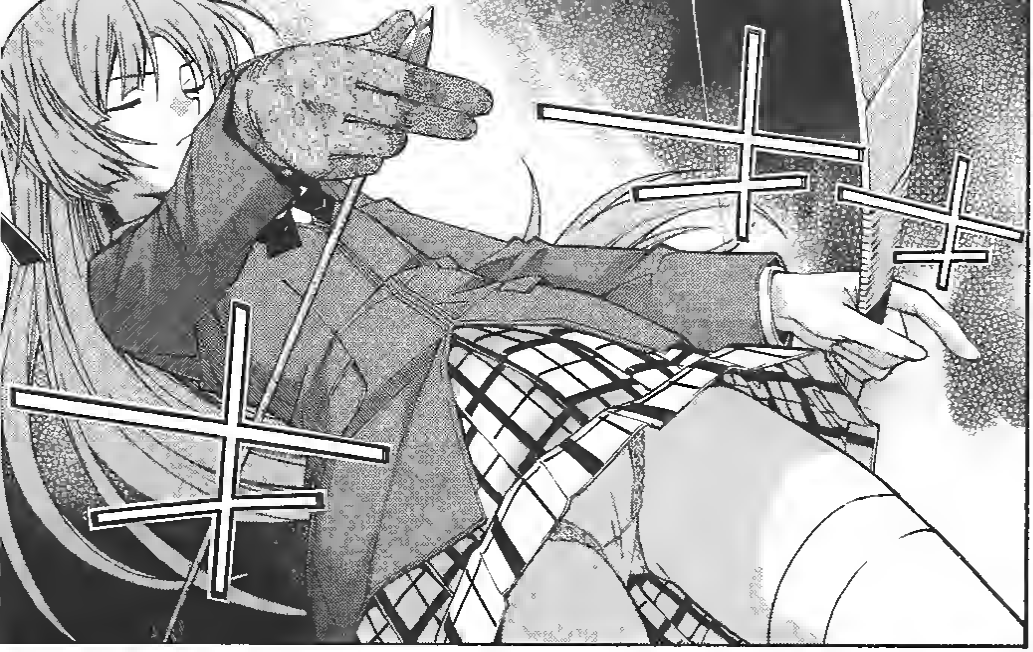

えっと…
あ 私
相馬茉莉と
いいます
私 霊術は全然
みそっかすなんですけど
不思議と治癒術だけは
得意なんです！
そ
そうなんだ


それじゃ後で
あいつも診て
貰えるかな…？


それじゃ
始めるわよ

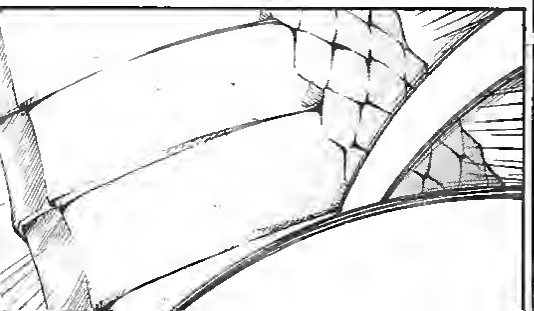

術が完成するまで
須世璃はアイツを
引きつけておいて
ええ


はぁ——
すぅ

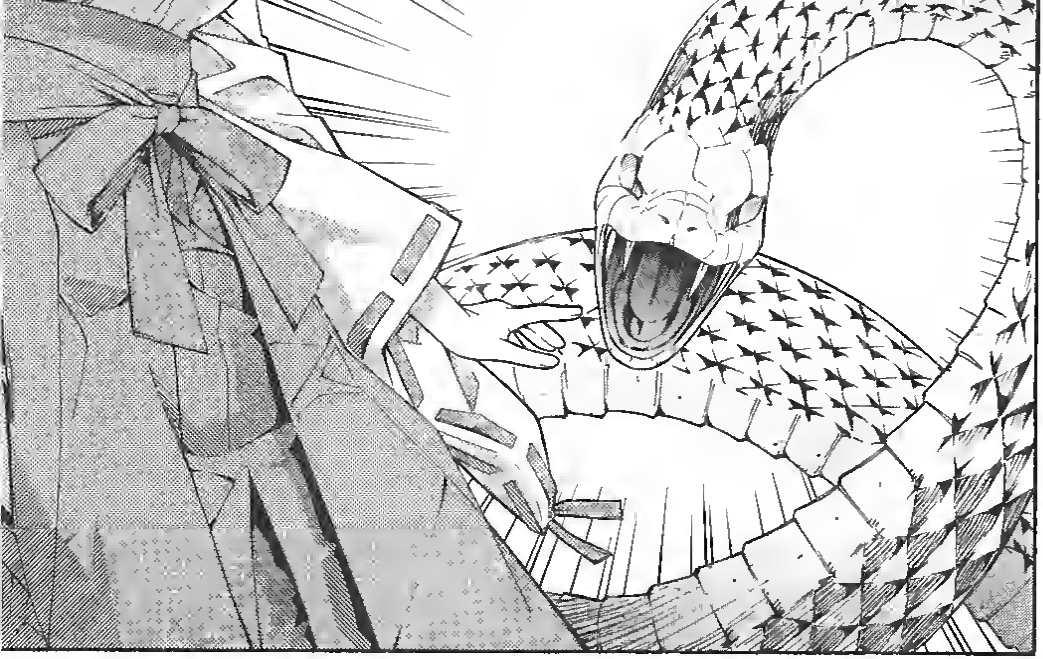



スッ


神火清明
神水清明
祓い給え
清め給え——




さっきみたいに
眼を狙うとまた
暴れる可能性がある
ウワバミの注意を
こっちに引きつければ
充分――
須世璃さん
気をつけて




く……っ
朔邪(さくや)
まだなのか!?
—神風清明(しんぷうせいめい)
dgori


朔邪…
須世璃
こっちへ！


ギリ
ギリ
ギリ
矢は一本
チャンスは一回
今あるあたしの霊力
ぜんぶ持ってけぇ
――っ!!!


島津流弓霊術具技
しまづりゅうきゅうれいじゅつぐぎ


迦具土
カグツチ
!!!




やったな
朔邪(さくや)！


すげ……


あ……


バカ!!
あっち向け!
ご ごめ
dgori
…あっ!?
霊力の制御が
不完全だから
そんなことに…
みっともない
だ…だから
未完成だって
こっち見るなって
言ったでしょ…!!
いいや
その




朔邪…？
ダメ…霊力を
使い果たして
力が――――


……ったく
しょうがねぇな




こいつもこうして
寝てりゃ
可愛いのにな
Podgorica
真一郎さま
なに？
……
いえ…
なんでも
ありません
くすくす
あれが島津の
次期後継者？
笑っちゃうくらい
無様で滑稽な
戦いぶりね


それと隣にいる
あの男…
あれが例の
「真眼」ね


そんな珍しい玩具
あいつらには
もったいないわ
あたしが有効に
使ってあげる
島津への…
復讐のためにね

第拾肆話 ―了―

The author

高橋脩

Assistant

Miki
一日一鍋
梶山昊頌
山口京之介

Design

R design studio



おまけ…みたいな

そんなわけで、2巻です。

お買いあげありがとうございます。

前回に続いてのキャラ紹介。

鳥津須世璃です。

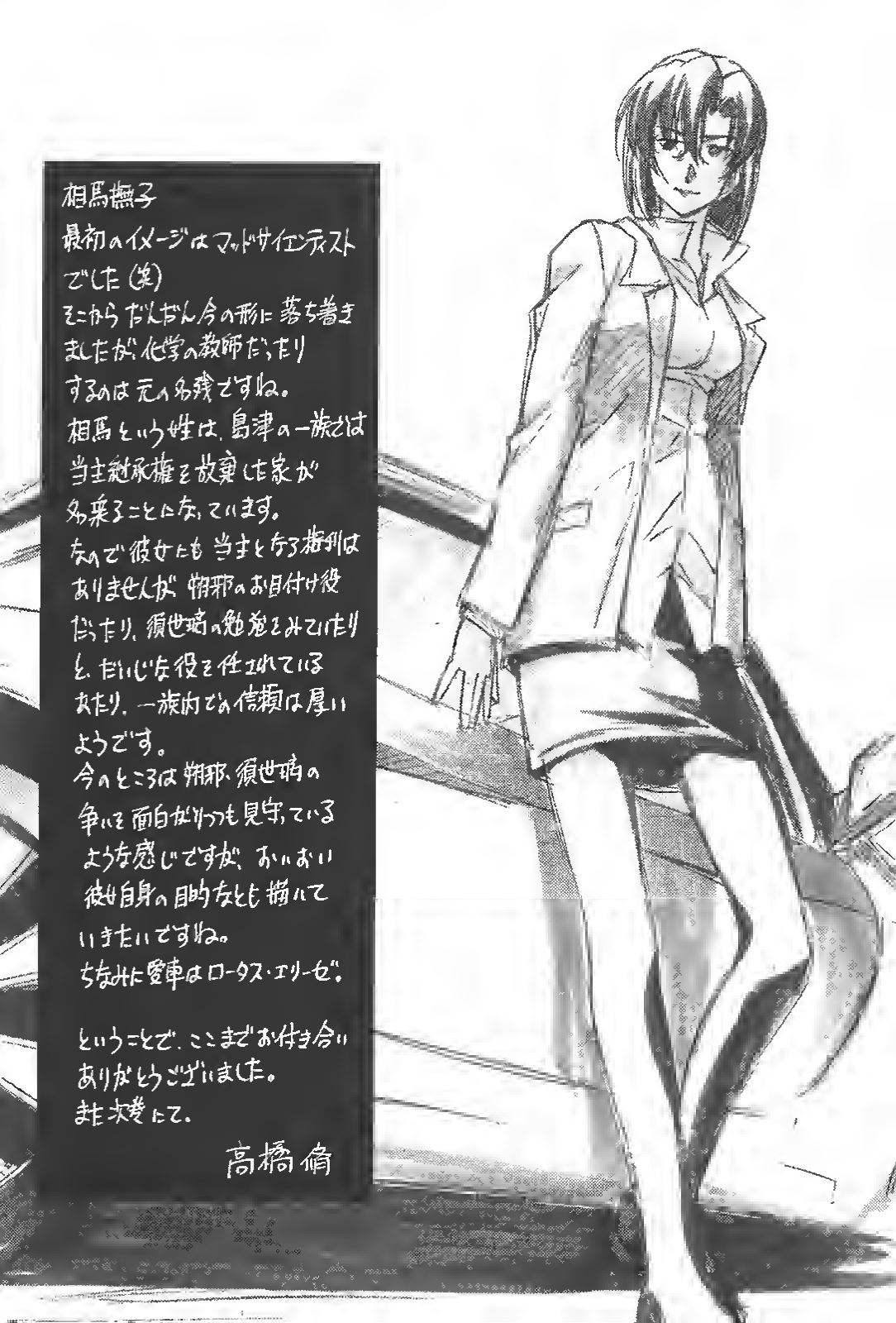
名前の由来はスセリビメから。

彼女は朝那のライバルキャラということで、無表情・巨乳と、朝那とは反対のイメージで設定しました。

歳は朝那の1つ下、学校に通っていれば高校1年です。

朝那とは当主の座を巡って争う関係ですが、真一郎のことも気になりだしてきたような感じで、今後は真一郎を巡っても争うことになるのか…は次巻以降描ければと思います。

しかし巨乳は描くのが難しい。(笑)



相馬撫子

最初のイメージはマッドサイエンティストでした(笑)
そこからだんだん今の形に落ち着きましたが、化学の教師だったりするのは元の名残ですね。
相馬という姓は、島津の一族とは当主継承権を放棄した家が名乗ることになっています。
なので彼女たちも当主となる指列はありませんが、朔耶のお目付け役だったり、須世璃の勉強をみていたりと、たいした役を任されてはいたり、一族内での信頼は厚いようです。
今のところは朔耶、須世璃の争いを面白がりつつも見守っているような感じですが、おいおい彼女自身の目的なども描いていきたいですね。
ちなみに愛車はロータス・エリーゼ。

ということで、ここまでお付き合いありがとうございました。
また次巻にて。

高橋脩

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

ISUCA（イスカ）②

著者

高橋 脩（たかはし おさむ）

2011年2月26日初版発行

発行者

井上伸一郎

発行　株式会社角川書店

〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8541(編集)

発売　株式会社角川グループパブリッシング

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)

http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン

R design studio

印刷　共同印刷株式会社

製本　共同印刷株式会社

初出／『ヤングエース』'10年7月号、8月号、10月号～12月号、'11年1月号、3月号

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2011 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Osamu TAKAHASHI 2011

ISBN978-4-04-715625-8 C0979